

森庵遺跡発掘調査報告

～伊賀市大谷所在～

2008（平成20）年2月

三重県埋蔵文化財センター





C

陳家莊北漢代遺址(西區)



S X32 通勢之 穴(音から)



S H31 地穴(物から)

序

三重県伊賀市は、平成16年11月1日に上野市、伊賀郡伊賀町、湯ヶ原村、伊賀町、大上村、名賀郡菟野町の6市町村が合併して誕生しました。それによって伊賀市は、前代特命委員の伊賀市におよぶほどの広大な新市になりました。

そのため伊賀市は、上野市の1000を超える湯蔵や伊賀湯蔵に加え、菟野町の湯蔵が含まれるようになりました。多数の湯蔵があるということは、昔から人々が湯浴し、歴史と文化を築いてきた証です。

今年発足しました森林温泉は、伊賀市西部の檜原川右岸に所在する温泉です。本温泉の成り立ちは、古来時代から中世時代にかけての人々が生活してきた温泉の一端を解明しました。

子どもは、これらの貴重な文化財を祖先の残した歴史遺産として保護し、後世に伝えていくと共に、今後の文化の中心と発展の基盤として活用し、公開していかなければなりません。

今年のもろ整頓事業に伴い、温泉の一部が道路となることになり、設備収容を怠ることになりましたが、これを契機に本番が伊賀市における新温泉を並びに三重県の温泉の中心となるとともに、文化財保護の観点にお役立ていただければ幸いです。

最後になりましたが、発足準備に当たりましてご協力を賜りました市民の皆様をはじめ三重県県政整備部、伊賀学専攻所、伊賀市教育委員会などの関係各位に厚く感謝申し上げます。

2008年2月

三重県湯蔵文化センター

所長 吉 水 良 夫

目 次

- 本書は、三重県伊賀市内谷守森林に所在する森林（もりあん）通門の発掘調査報告書である。
- 調査は、次の経緯により実施した。
 調査主体 三重県教育委員会
 調査担当 三重県歴史文化センター
 調査指導 伊賀市 萩原義彦
 調査作業委託 株式会社 歴史文化センターサポートシステム
 自然科学研究所 株式会社 バリノ・サーヴェイ
- 本報告書の作成経緯は、三重県歴史文化センター調査指導1課が行った。なお、通門の発掘・トレースについては、夏栲伊賀課が行い、通門の写実は、本瀬学、石井智大、吉本達也が撮影した。社説及び編集は、萩原が行った。
- 出版におけるお礼は、聖学調査会の協力を公認とし、お礼は別冊に掲載した。
- 本書で用いた通門系記号は、下記のとおりでである。
 SB：聖学村集約 SD：洞 SK：土塚 SH：聖穴古島、聖穴集約
 Pit：柱穴 ST：土器塚 SX：透墓 SZ：その他
- 発掘調査による土器・可視光の記録及び図に 通門は、三重県歴史文化センターにおいて保管している。
- 発掘調査は、三重県教育委員会が三重県歴史文化センターから経費の補助を受け、平成18年度及び19年度（第2）422号（三重発BP）によって実施した。
- 調査にあたっては、三重県歴史文化センター、伊賀市歴史民俗資料館、伊賀市教育委員会ならびに関係各団体の協力を得た。

本文目次

| | | |
|-----|-------------------|----|
| I | 前言 | 1 |
| | 1 講義の概観 | 1 |
| | 2 講義の方法 | 1 |
| | 3 講義の経緯 | 1 |
| | 4 講義の意義 | 1 |
| | 5 マンツウ保護法若による諸運知 | 2 |
| II | 位階と環境 | 3 |
| | 1 地理的環境 | 3 |
| | 2 歴史的環境 | 3 |
| III | 遺構 | 6 |
| | 1 基本層序 | 6 |
| | 2 検出遺構 | 6 |
| IV | 遺物 | 32 |
| V | 自然科学分析 | 44 |
| VI | まとめ | 47 |
| | 1 古墳時代 | 47 |
| | 2 平安時代 | 47 |
| | 3 鎌倉時代 | 48 |
| | 4 室町時代 | 48 |
| | 5 小結 | 49 |
| 考察編 | 堅穴墓物の示す可能性について | 50 |
| | 1 堅穴住居から堅穴墓物へ | 50 |
| | 2 堅穴墓物の分類 | 50 |
| | 3 堅穴墓物の性格 | 50 |
| | 4 堅穴墓物が有する政治性について | 50 |
| | 5 堅穴墓物への転換 | 51 |
| | 6 堅穴墓物への転換要素 | 51 |
| | 7 家と館の構造変化が示す可能性 | 51 |
| | 8 まとめ | 52 |

挿 図 目 次

- 第1号 遺跡平面図 (1/25,000)
- 第2号 遺跡地形図 (1/5,000)
- 第3号 遺跡平面図 (1/2,000)
- 第4号 遺跡平面図 (1/400)
- 第5号 上層土層遺構平面図 (1/200)
- 第6号 下層土層遺構平面図 (1/200)
- 第7号 遺跡断面図 (1/100)
- 第8号 SX32断面図 (1/100)
- 第9号 SX32断面図・断面図 (1/20・1/50)
- 第10号 上層土層遺構平面図 (1/200)
- 第11号 SH120断面図・断面図 (1/50)
- 第12号 SZ90断面図・断面図 (1/50)
- 第13号 SB115断面図・断面図 (1/100)
- 第14号 SH40断面図・断面図 (1/50)
- 第15号 SH41断面図・断面図 (1/100)
- 第16号 SK37・39・112・116断面図・断面図 (1/50, SK112は1/40)
- 第17号 SK44・118断面図・断面図 (1/50)
- 第18号 SK86・110・111断面図・断面図 (1/50)
- 第19号 SD69・C6Pit3・C2Pit5・E9Pit4・E10Pit2断面図・断面図 (1/20)
- 第20号 SD65遺跡平面図 (1/20)
- 第21号 SD65遺跡平面図 (1/20)
- 第22号 SH31断面図・断面図 (1/100)
- 第23号 SB122・SD65・69断面図 (1/150)
- 第24号 SB122・SD65・69断面図 (1/50・1/100)
- 第25号 SD63断面図・断面図 (1/150・1/50)
- 第26号 上層土層遺構平面図 (1/200)
- 第27号 上層土層遺構確認図 (1/200)
- 第28号 断面遺跡図 (1)
- 第29号 断面遺跡図 (2)
- 第30号 断面遺跡図 (3)
- 第31号 断面遺跡図 (4)
- 第32号 断面遺跡図 (5)

表 目 次

| | | | |
|-----|------------|-----|------------|
| 第1表 | 遺構一覧表(1) | 第5表 | 出土遺物観察表(2) |
| 第2表 | 遺構一覧表(2) | 第6表 | 出土遺物観察表(3) |
| 第3表 | 遺構一覧表(3) | 第7表 | 出土遺物観察表(4) |
| 第4表 | 出土遺物観察表(1) | 第8表 | 樹種同定結果 |

図 版 目 次

巻頭写真1

調査区遠景(北から)

巻頭写真2

調査区完掘状況(真上)

巻頭写真3

| | | | |
|-----|------------------|------|-----------------------|
| | S X32遺物出土状況(西から) | 図版10 | S K86遺物出土状況(南から) |
| | S H31完掘状況(南西から) | | S K86遺物出土状況(南から) |
| 図版1 | 調査前風景(南から) | 図版11 | 箱状木製品(S D63)出土状況(南から) |
| | 調査前風景(北から) | | 漆器椀(S D63)出土状況(北から) |
| 図版2 | S X32遺物出土状況(西から) | 図版12 | S Z110完掘状況(南から) |
| | S X32遺物出土状況(東から) | | ピット遺物出土状況(南から) |
| 図版3 | 上地区完掘状況(南から) | 図版13 | 水田跡検出状況(北から) |
| | S H31完掘状況(西から) | | 水田跡検出状況(北西から) |
| 図版4 | S H40完掘状況(南から) | 図版14 | 出土遺物(1) |
| | S H41断割状況(東南から) | 図版15 | 出土遺物(2) |
| 図版5 | 下地区完掘状況(北西から) | 図版16 | 出土遺物(3) |
| | 下地区遺構掘削状況(南西から) | 図版17 | 出土遺物(4) |
| 図版6 | 下地区下層完掘状況(北西から) | 図版18 | 出土遺物(5)(デジタルデータ) |
| | S H120完掘状況(西から) | 図版19 | 木材(1) |
| 図版7 | S Z90礫層出土状況(北から) | 図版20 | 木材(2)・種実遺体 |
| | S Z90完掘状況(北から) | | |
| 図版8 | S D65遺物出土状況(南から) | | |
| | S D65遺物出土状況(西から) | | |
| 図版9 | S D65遺物出土状況(西から) | | |
| | S K86遺物出土状況(西から) | | |

I 前 言

1 調査契機

今月の発掘調査は、道路改良車(号)422号(三号車BP)に付くものである。このバイパスは、伊賀内河原から北河原に延伸し、伊賀内河原を迂回して松尾川及びJR関東本線を道交りで越えて伊賀内大谷を通過するものである。このルートを実施するにあたって計画上で確認されたのが本遺跡である。本遺跡は本バイパス整備に、発掘調査が不可欠であるため工事の運びとなった。

なお、本調査は道路整備に伴う工事に係る部分だけでなく調査地周辺にある民有地も行うこととなった。民有地については、土地所有者の承諾を得て発掘調査を実施した。なお、民有地では、工事に伴って調査地に応じて遺構を掘削した。そのため遺構の一部しか掘削していない。

2 調査方法

発掘調査地は河原野下上に位置しており、調査地は上河原と下河原に分かれている。上河原と下河原の幅員は3～4mである。調査は地盤の割合で、上河原から行った。発掘調査は、上河原の北側から手機によって行った。調査地は北河原から行い北から南にかけての方向に敷物を付し(1・2・3・～)、北から南にかけての方向にアルファベットを付した(A・B・C・～)。調査地は、調査地を調査地に対して掘削した。調査地を掘削された北河原の地は、A1からである。なお、遺物の取り上げについては北河原の地の調査名に付した。また、遺物番号については調査地の下河原、遺物の種類、位置関係にかかわらず、1から近し番号を付した。土器については、全体の調査・調査(1/20)、発掘調査(1/10)をそれぞれが掘削で行った。全体の調査は、トータルステーションにて行った。写真撮影については、全調査地をラジコンヘリコプターで6×6cm、発掘調査地を4×5インチ、35mmのフィルムにより行った。

3 調査経過

現場における発掘調査は、平成18年5月31日から開始し、6月5日から手機によって発掘調査を行った。発掘調査は、6月14日から上河原の発掘調査場に移った。発掘調査は、上河原の調査場から下河原に移った。上河原の一部は、手機の調査場部分を残して掘削した。7月10日から本遺跡の調査を行った。また、下河原の調査場のため8月7日から手機によって掘削を行った。遺構掘削後、遺跡の撮影は、ラジコンヘリコプターにより8月19日に行った。

現場調査は8月20日に終了し、約80名の参加者を招くことができた。上河原の調査場のトレンチを含め、発掘調査は8月23日に終了した。

4 調査日誌

5月18日(木)

現場にて伊賀発掘事務所、伊賀文化サポートシステム株式会社(喜多、広瀬、大丸)と東海協賛(伊賀発掘事務所:松本、船岡、馬場、伊賀文化センター:所長吉本、竹中、尾崎、小根、森田)。

5月31日(水)

発掘調査準備の撮影(準備場から)。

6月5日(月)

手機が上河原に付るための本遺跡の調査、手機による発掘調査開始。上河原それぞれの遺構の調査を行う。

6月7日(水)

上河原の発掘調査開始。調査地の南側から行う。調査地とみられるまで発掘調査。

6月8日(木)

引き継ぎ発掘調査。発掘調査場における発掘調査の確認。発掘調査をローに掘削とみられる発掘調査の確認。

6月9日(金)

雨のため、作業中止。

6月12・13日(日・火)

迅速に引き継ぎ、上野宮の手ごもり作業を行う。

6月14日(木)

上野宮の神位遷座を行った後に道橋検査にとり掛かる。

6月15日(木)

雨のため、作業中止。

6月16日(金)

埴川作業後、上野宮道橋検査。埴川溝を確認した。

6月19～23日(月～金)

上野宮大入り埴の検査、各入り埴及び溝若道橋塀型
仮足跡作成。上野宮の互換による手ごもり作業。

6月27日(木)

上野宮道橋検査。現代確認。

6月28日(木)

上野宮道橋塀型(SZ31)及び互換による上野宮道
橋への塀型。

6月29・30日(木・金)

上野宮溝若道橋塀型。

7月3・4日(月・火)

上野宮溝若道橋塀型、上野宮埴川作業。

7月5日(水)

雨のため、作業中止。

7月6日(木)

上野宮道橋塀型。塀穴伏道橋(SZ31)の塀型
(塀穴位置が塀柱位置にずれする現象が認められる)。この
道橋からごもりがはじまった。上野宮埴川溝の塀型。

7月7日(金)

上野宮道橋塀型。首道の遷座さき部分(SX32)
とみられる道橋を塀型。上野宮互換による塀型(直
道道橋部分について)。

7月10～12日(月～水)

上野宮子若道橋塀型(SK44・SD30)、塀型
道橋塀型。上野宮は、10日から直道道橋部分を互換
によって手ごもり作業。塀型を搬出し道橋敷へ。

7月13・14日(木・金)

上野宮宮前に溝若道橋塀型。上野宮埴川溝塀型。

7月18・19日(火・水)

上野宮の講合の塀型部取崩し、コンパネ若若によ
って取崩しをする。大入り作業及び埴川作業。

7月20・21日(木・金)

雨のため作業中止。上野宮宮前に講合の塀型若
崩れる。塀川作業を再開する。

7月24～26日(月～水)

上野宮、子若道橋塀型(SD78・SK72、82、83)。

7月27日(木)

職場安全巡視。吉井所長以下頭部。上野宮の溝
(SD63)など道橋塀型。

7月28・31日(金・月)

上野宮宮前にビットや塀型残し部分の道橋塀型。

8月1～4日(火～金)

上野宮宮前にビット道橋塀型。塀型塀型写真撮影。

8月7～11・14～17日(月～金)

上野宮宮前に溝若道橋塀型。上野宮上野宮道橋の
足跡作成後上野宮道橋まで互換による塀型。上野宮道
橋の互換・塀穴位置を塀型する。

8月18日(金)

上野宮宮前に各道橋塀型後ラジコンヘリコプター
による写真撮影のため道橋塀型。

8月19日(土)

ラジコンヘリコプターによる全景写真撮影。塀型
道橋塀型撮影。

8月20日(日)

現道遊歩道の開通。午前10:00から開通し、約80
名の参加者を招いた。

8月21～23日(月～水)

上野宮、塀型道橋の足跡写真。22日に上野宮
をトレンチにて上野宮溝を確認。首道の遷座さき部分
の塀型塀型、足跡作成。講合終了。

5 文化財保護法等による審定

文化財保護法(以下、法)若にかかると審定は、
以下のとおり行っている。

・三日月宮文部省48文第1項に基づき具知の遺蹟や
文化財と鑑別における土木工法の発見

昭和18年4月10日付け文部省78号(国務省長官)

昭和18年4月10日付け文部省12-2-7号(国務省長官)

・法第99条に基づき発見(国務省長官)

昭和18年5月23日付け文部省96号(国務省長官)

・文化財保護法第100文第2項に基づき土木工法の発
見認定

昭和18年9月4日付け文部省3-9号(国務省長官)

・遺跡の法に基づき土木工法の発見(国務省長官)

昭和18年9月11日付け文部省12-4-9号(国務省長官)

昭和18年9月11日付け文部省12-4-9号(国務省長官)

昭和18年9月11日付け文部省12-4-9号(国務省長官)

II 位置と環境

1 地理的環境

今月の発掘調査対象地である森島遺跡(1)は、三好界内大谷宇森地区に所在する。本遺跡の所在する区域は三好界の北東部に位置し、行政上では高梁市に、北東は京都府に、東は奈良県に接している。

地形的に本遺跡地は北部に高梁川、北東部に谷川、東部は和歌山川、南部は和歌山川に生まれた沖積で、谷川や和歌山川は少なく下流部や河岸段丘が多い。また、和歌山川が谷川・高梁川部から集まり、ほぼ谷川の沖積を縦断する大津川に合流し、最終的には大津川に流れていく。

現在の道路は、宮家道(国道25号線)が谷川・高梁川部をほぼ北東から南西にかけて横断し、奈良・大谷道の和歌山線と三好・大谷道の和歌山線を

結んでいる。津守からは、国道163号線が長野宮を越えるルート、大谷からは、国道165号線が長野宮を越えるルートによって構成されている。

2 歴史的環境

本遺跡地は、古来より和歌山(和歌山・奈良・京都)を結ぶルート上の重要な交通の要所であった。江戸時代の有名な陣屋ノ辻で知られる場所は、街道の合流地である。また、現在の和歌山街道はかつて藤原氏の領地であった。和歌山街道への参詣者の宿場として栄えてきた。遺跡が和歌山の森島遺跡の成立をもとに当地域に展開してきた。

和歌山街道から見てみると、ほとんど遺跡が確認されている遺跡は少ない。遺



図1 森島遺跡(1/50,000)

寺が集落から南東2.5kmの伊賀守屋敷（2）では享和2年・7年の発掘調査で縄文時代中期にかけての遺構が確認されている。

享和時代では、南北1.2kmに亘る遺跡（3）が所在している。昭和36年に調査が行われ、縄文時代中期にかけての遺構が確認されている。伊賀守屋敷においても縄文時代中期の遺構が確認されている。

古墳時代では、調査が行われている遺跡がある。瀬戸川の南岸の古墳遺跡（4）、古墳遺跡（5）

が享和2・3年、享和14年に発掘調査されている。集落の規模は、一部埋没しており果敢とみられる河や繁六が堤が確認されている。古墳遺跡は、9段で高さ25mを誇る。古墳の周囲は、古墳遺跡から5世紀後半頃の築造と想定されている。

奈良時代から平安時代で伊賀守屋敷は、伊賀郡・古賀郡・伊賀郡・常陸郡によって構成された。伊賀守屋敷が昭和63年の発掘調査によって築造されたのが確認され、古墳・古墳・古墳といった古墳の発

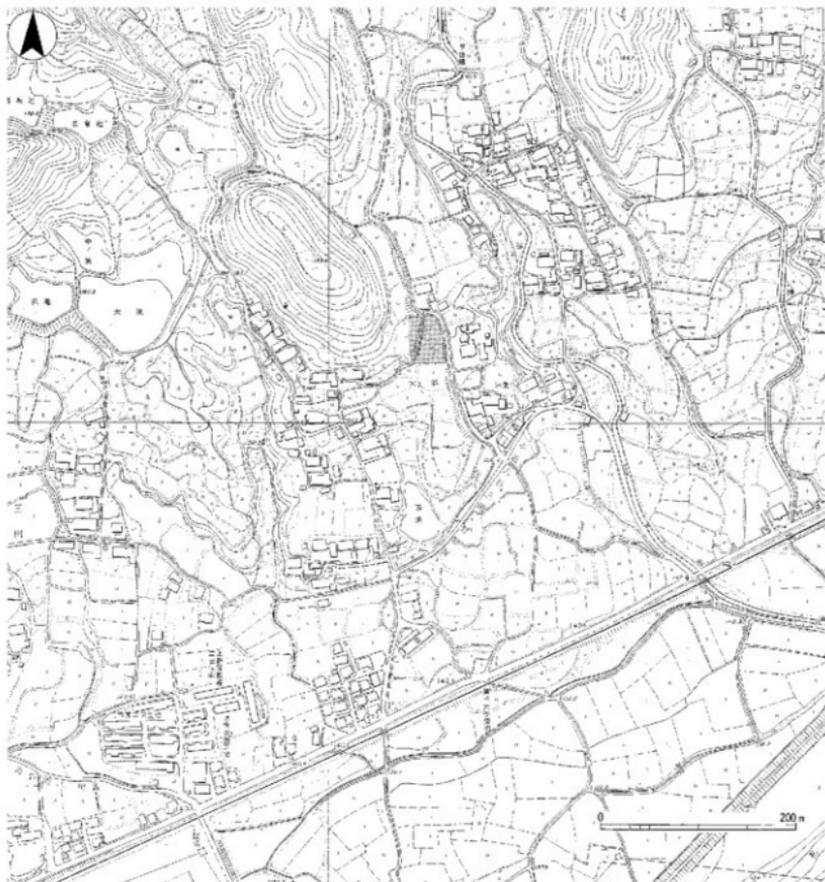


図2 遺跡分布図 (1/5,000)

遺が判明している。土門遺跡では、壘式柱礎的・壘穴式居が確認されている。また、石室跡については、三ノ遺跡の付近に三ノ庵石室（6）があり、立が注目している。

鎌倉時代から室町時代においては、三ノ遺跡跡地で灌漑跡が600箇所を超えて残っており、三ノ遺跡跡のすぐ東側に50m×60mの絶好地で三ノ遺跡跡が残る三ノ遺跡跡谷氏遺跡（7）が所在する。また、堀川河原野丘上には灌漑跡が深くも多く残っている。この当野の遺跡跡には、土門遺跡で壘式柱礎的居が確認されている。（藤島義典）

【註】

- ①三ノ遺跡跡で中心部「三ノ遺跡跡」（第1～4次）発掘調査報告（三ノ遺跡跡で中心部調査報告99-4 1992年）
- ②三ノ遺跡跡「三ノ遺跡跡」（第6次）（『伊予紀』第13号一孝三時代・堀川・三ノ遺跡跡（第6次）三ノ遺跡跡で中心部 2003年）
- ③三ノ遺跡跡「三ノ遺跡跡 壘式居」（三ノ遺跡跡 2005年）
- ④三ノ遺跡跡調査委員会「土門遺跡（第1次）発掘調査報告」（三ノ遺跡跡で中心部調査報告31 2004年）
- ⑤三ノ遺跡跡で中心部「土門遺跡（第3次）発掘調査報告」（三ノ遺跡跡で中心部調査報告237 2004年）
- ⑥遺2と4
- ⑦遺2と4
- ⑧三ノ遺跡跡調査委員会「三ノ遺跡跡跡」1980年



図3 三ノ遺跡跡跡 (1/2,000)

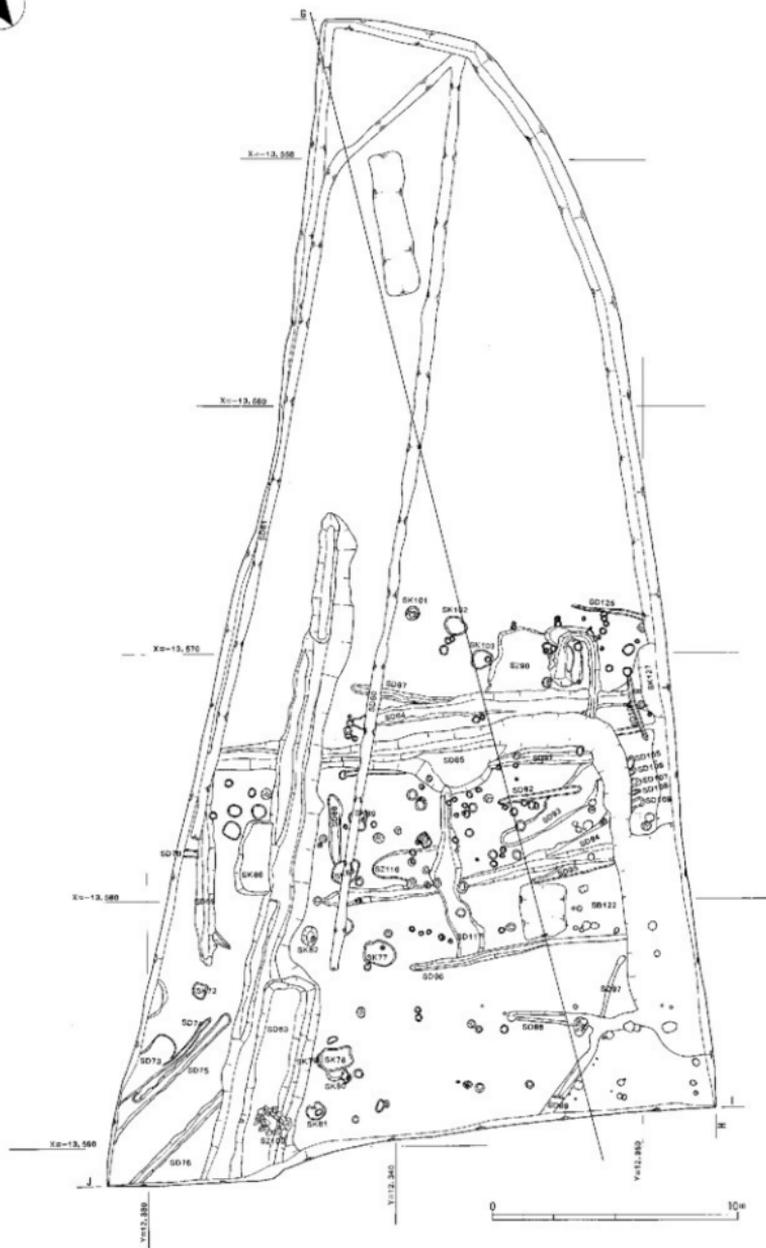


图 6 崧泽遗址新石器时代遗址平面图 (1/200)

竹、堅穴装束、堅穴柱居、溝、ミサなどがある。主な遺構については、当代等に記述した。その戸の遺構の形状については、遺構-見取を参照されたい。
(第1～3号 遺構-見取)

(1) 目録番号

S X 32 (号 8・9号)

ミサや土間に於いて検出された遺構である。遺構は、溝溝 (S D 33) を併用ものとみられ想定長約10mである。溝溝は、器装束部の中心に走る溝である。溝溝の規模は、長さ4.11m、幅0.64m、深さ0.2mである。溝溝は、全体的に直を採っており、器装束は直に於いては、長さ4.62m、幅1.7m、深さ0.42mである。*内部分が長さ3.56m、幅0.56m、深さ0.28mである。遺物は、*内部分から出土である鉄甲 (1)、鉄鏃 (2)、こまである槍鏃 (3)、砥石 (4～6)、羽形鉄製品 (7)、ミサ (8)、空甲である空甲 (9) が目録されている。遺構の遺構当時は、5世紀前半と見られる。

(2) 目録番号

S B 115 (号 13号)

ミサや土間に於いて検出された器装束柱装束である。器装束柱装束は、桁行2間 (2.4m)、梁行2間以上 (2.84m) の器装束柱装束の丸丸である。装束は、丸丸で中心に0度の傾りである。溝溝を丸丸に囲っているとみられる。

装束の規模は、それぞれ桁行1+1.4m、梁行1.6+1.25mである。柱間法は、桁行3.3+4.5尺、梁行5.5+4尺と想定される。したがって装束の想定規模は、桁行2.34m以上、梁行2.85m以上となる。器装束柱装束の当時は、*当代と想定される。

S H 120 (号 11号)

ミサや土間に於いて検出された堅穴柱居である。溝溝等に於いて検出された規模は、丸丸2.62m、中心1.71m、深さ0.29mである。堅穴柱居の全体の1/4程度を埋めている。柱居は、1箇所確認した。堅穴柱居の中心に器装束が走る。器装束とみられる丸丸について1箇所確認した。また丸丸は、器装束が穿されるもの-一部は丸丸が見えており、器装束のない箇所も認められた。器装束には器-銃の多く含まれる箇所とそれ以外の箇所に分かれる。遺物は、丸丸からのものであり器装束 (10・11)、器 (12) が

目録されている。器装束とみられる箇所は、堅穴柱居の中心に丸丸とみられる。器装束とみられる器装束は、丸丸が長さ20cm幅約の長方形である。器装束は丸丸に変形し、傾斜した物とみられる。堅穴柱居の当時は、*当代と想定される。

S D 30

ミサや土間に於いて検出された器装束である。器装束を器装束では、器装束が丸丸になるため安全器装束、器装束を器装束までごめため、器装束の丸丸は下甲である。器装束が、部分的に直線によって確認したところ器装束に併びていることが器装束した。

溝の規模は、器装束の検出長11.64m、幅約0.47m、深さ約0.27mである。遺物は、目録していない。

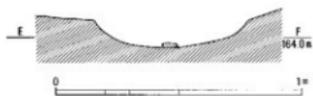
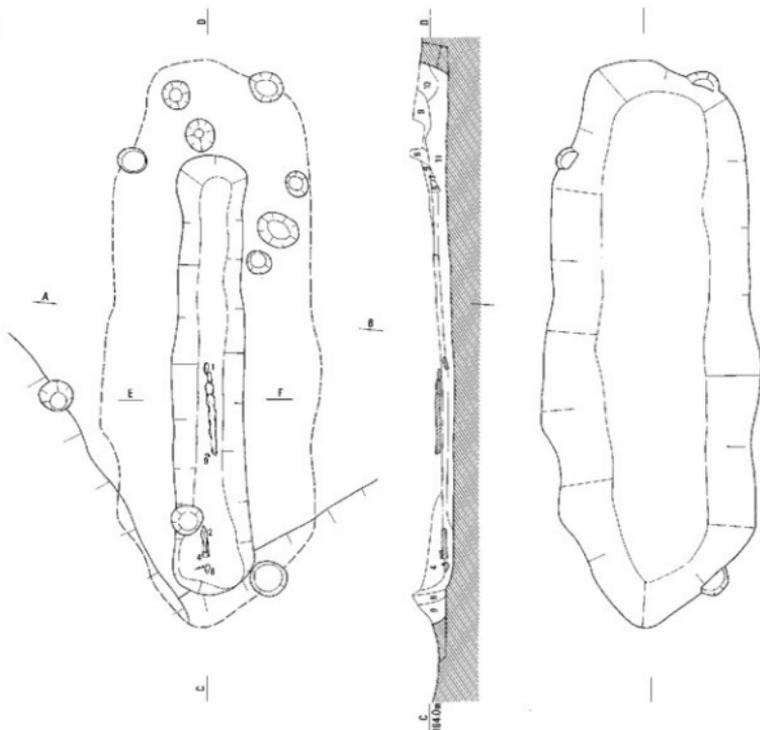
S D 30の器装束関係は、S H 41より早く、丸丸が埋れている柱居C 2をPit 5より早くいたため*当代の当時に想定した。

S Z 90 (号 12号)

ミサや土間に於いて検出された器装束の遺構である。器装束は、長方形である。遺構の規模は、長さ4.26m、幅2.76mである。遺構検出時、器装束が



号 8号 SX32号 号 (1/100)



- 1 にごい黄褐色粘質土 (Iha10193/2)・浅黄色砂質土 (Iha2, 107/4) の継ぎ
1) ブロック (φ200前後) が多数に混じる
- 2 にごい黄褐色粘質土 (Iha10193/2)
- 3 灰褐色砂質土 (Iha10193/2)
- 4 灰黄色粘質土 (φ200前後の継ぎ・地山ブロックを含む) (Iha2, 106/2)
- 5 灰黄色砂質土 (φ200前後の継ぎ・地山ブロックを含む) (4より明る
い) (Iha2, 106/2)
- 6 灰褐色粘質土 (Iha10193/2)
- 7 褐色粘質土 (Iha10193/1) (地山ブロック含む、石製品、鉄製品含む)
- 8 にごい黄褐色粘質土 (Iha10193/2)・浅黄色砂質土 (Iha2, 107/4)
- 9 にごい粘質土 (Iha2, 107/4) の底くり部分
- 10 黄褐色砂質土 (Iha2, 105/2) (やや粘性質)
- 11 浅褐色粘質土 (Iha2, 107/4) (地山ブロックが全体に散在に混じる)

見えており、溝跡等は堅が柱基と考えていた。Ⅱ棟部に礎層が長條形形状に造られ、礎層のすぐ下に床層が造られていた。礎層・床層部分より溝が通へば、当然通りにⅡ棟部分にかけて溝が通る。礎層・床層のⅡ棟部分には柱穴が有しており

仲りの残基的なものか柱字を取りむようなものが有していた可能性がある。礎層見取り棟部近には、ノ頭木の有が考かれていた。

また、中庭の見取方向の溝(SD91)は、Ⅱ棟部の溝から通る溝につながる可能性がある。溝の規模



図10 Ⅱ棟部・礎層通り等 (1/200)



- 1 黄褐色粘質土 (Sho7, S184/2) (灰, 雑土含む, 今や不明)
- 2 黒褐色粘質土 (Sho10183/2) (灰, 雑土, 山石ブロック含む, ややしまっている)
- 3 黄褐色粘質土 (Sho10183/3) (地山) + 灰褐色粘質土 (Sho7, S184/2) (灰, 雑土混じる)
- 4 暗灰黄粘質土 (Sho2, S15/2) + 暗灰色粘質土 (Sho10183/1) (灰, 雑土混じる)
- 5 灰黄褐色粘質土 (Sho10183/2) (灰, 雑土多量を含む)
- 6 灰褐色粘質土 (Sho7, S184/2)
- 7 黄褐色粘質土 (Sho2, S15/1) (灰, 雑土含む) + 赤褐色粘質土 (Sho7, S183/4)
- 8 赤褐色粘質土 (Sho2, S15/4)
- 9 灰黄褐色よりやや明るい灰黄褐色粘質土 (Sho10183/2) (今や粘性有り, 灰, 雑土含む)
- 10 灰褐色粘質土 (Sho7, S184/2) + 暗灰色粘質土 (Sho10183/1)
- 11 黄褐色粘質土 (Sho10183/3) (地山) + 灰褐色粘質土 (Sho7, S184/2) (灰, 雑土含む)

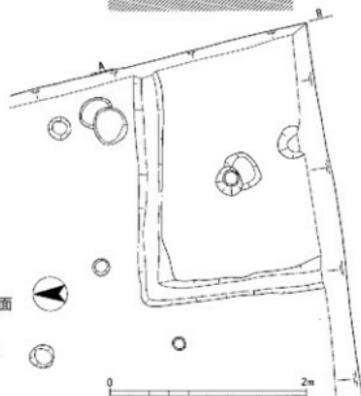
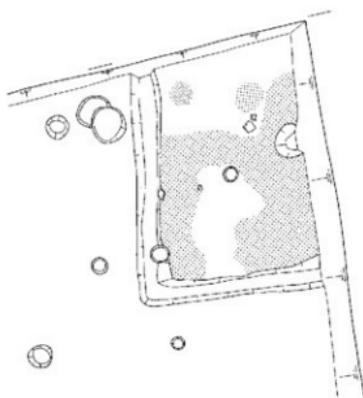
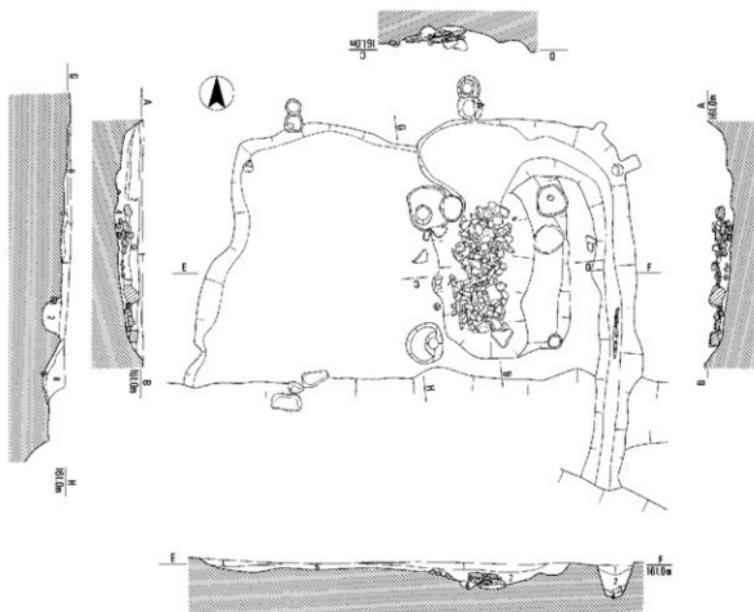
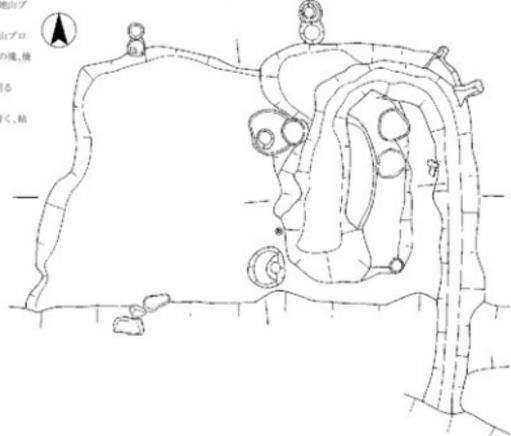


図11 SH120等 (1/50)



- 1 灰黄褐色砂質土 (Oha10TR5/2)
- 2 灰黄褐色砂質土 (Oha10TR4/2) (炭、雑土含む)
- 3 灰黄褐色砂質土 (Oha10TR5/2) (炭、雑土、地山ブロック含む)
- 4 黒色団扇 (Oha10TR7/1)の遺残層
- 5 灰黄褐色粘質土 (Oha10TR5/2) (大片の地山ブロック含む)
- 6 灰黄褐色砂質土 (Oha10TR5/2) (大片の炭の塊、雑土を多量に含む)
- 7 灰黄色粘質土 (Oha2, S16/2) (粘性強)
- 8 灰黄褐色砂質土 (Oha10TR5/2) (1よりも明るく) (炭、雑土含む)
- 9 黄褐色粘質土 (Oha10TR5/1)
- 10 灰黄褐色砂質土 (Oha10TR4/2) (2よりも暗く、粘性有り)



m、幅近3.2m、深さ0.15mである。前述したS Z 31と同様の遺構とみられる。伊藤溝 (SD42) が流れており、溝内にピットが確認できた。溝の規模は、東端部分で長さ2.38m、幅0.46m、深さ0.17m、中央部分で長さ3.65m、幅0.43m、深さ0.17mである。この溝も遺構に土器が含まれているため伊藤の溝である可能性が高い。壱六基的か伊藤遺的と推定される。遺物は、瓦器焼 (24) が主として見られるため13世紀頃とみられる。

SH31 (号22号)

二六号土間に相当している壱六基的である。遺構の規模は、長近8.48m・幅近3.87m・深さ0.25mである。ヨシプランは、長方形である。溝幅は、壱

六基の溝幅もしくは壱六基的の溝幅とみられるかと推定は想定した。

しかしながら、遺構の東端付近には、5号溝が流れていた。また東端から東端にかけて埋没した遺構の角に沿って溝幅が認められ、これは全長していた可能性が考えられる。5号溝には溝 (SD34) が埋められており伊藤溝として遺構を巡り、溝幅として遺構の周囲 (丸型) にかけて埋められている。残りは、遺構の東端部分で溝幅にみられてきたながら埋められた溝幅が認められる。溝幅からの溝幅の復元を考えたときとみられる。溝の規模は、東端部分で長さ14.9m、幅0.5m、深さ0.23m、中央部分で長さ3.35m、幅0.34m、深さ0.23m

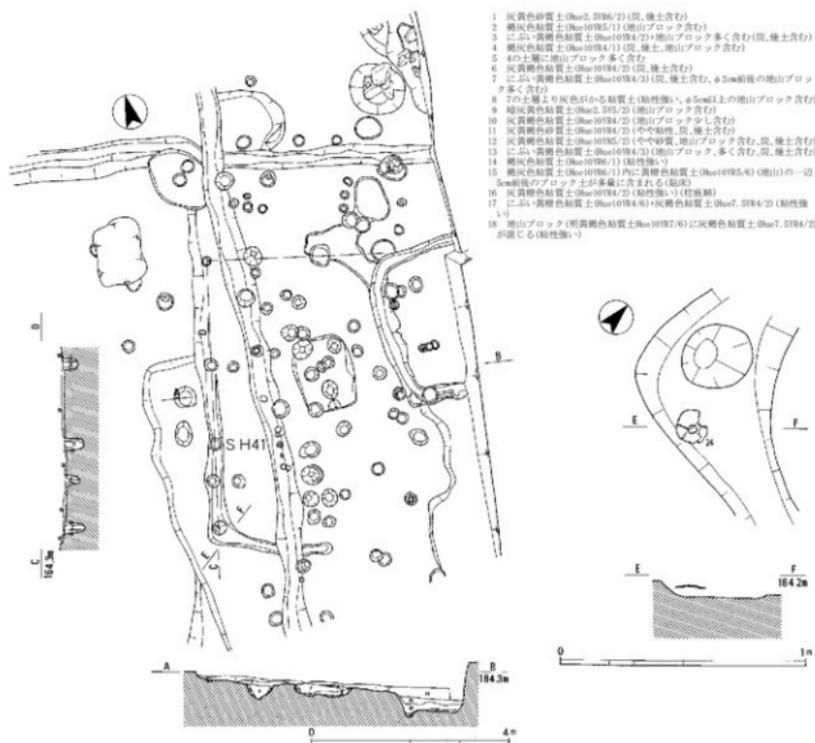
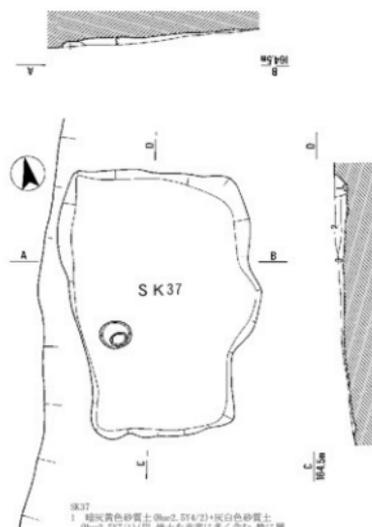
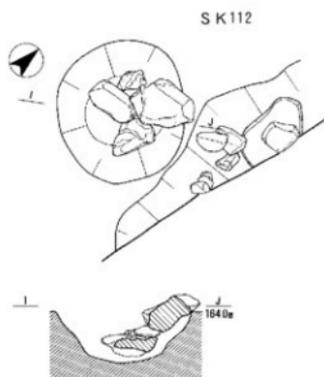


図15 SH41の遺構・溝の平面図 (1/100)・遺構の断面図 (1/20)



SK37

- 1 暗灰色砂質土 (Hac2. S74/2) + 灰白色砂質土 (Hac2. S77/1) (1) (泥土を非常に多く含む。特に堀の下段に多く入る)
- 2 黄灰色砂質土 (Hac2. S76/2) (泥、埴土を含む)
- 3 エリア・黄褐色砂質土 (Hac10783/2) (やや砂質、地山がブロック状に見える)



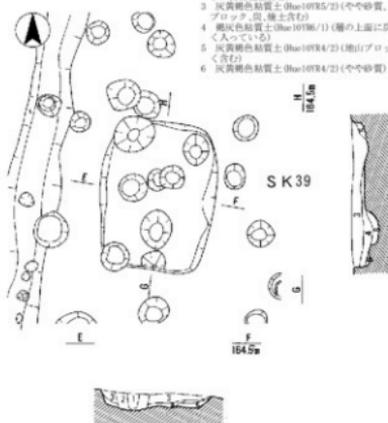
SK112

SK116

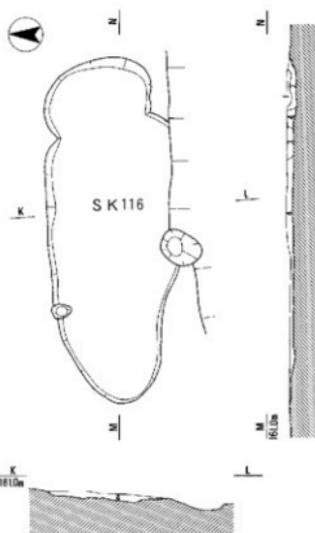
- 1 エリア・黄色 (Hac2. S76/3) (泥、埴土を含む)
- 2 黒色泥層 (Hac2. S72/1)
- 3 灰黄褐色砂質土 (Hac10785/2) (粘性少し有り、泥、埴土を含む)
- 4 灰黄色砂質土 (Hac2. S76/2) (泥、埴土、地山ブロック含む)

SK39

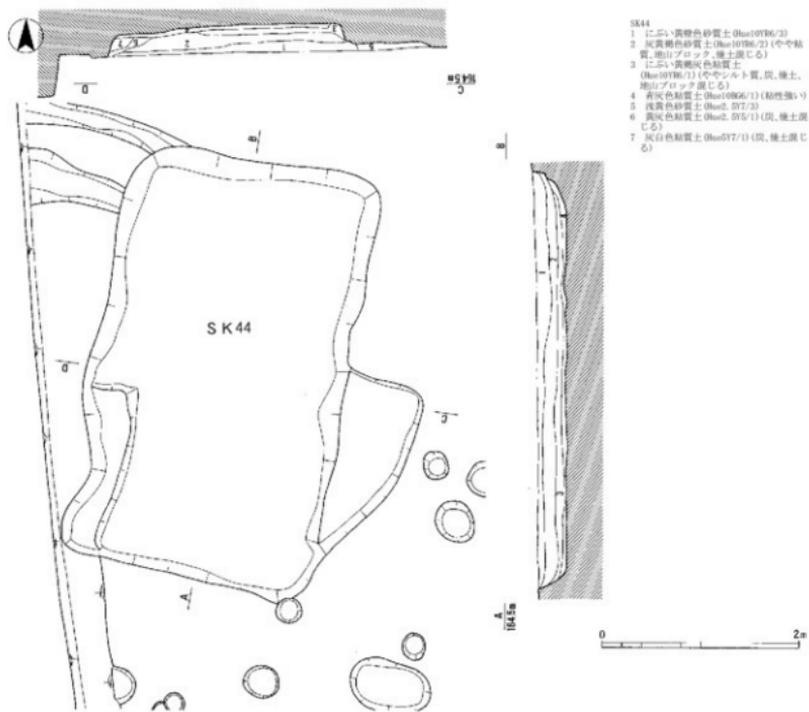
- 1 暗灰色粘質土 (Hac10785/1)
- 2 灰黄褐色粘質土 (Hac10783/2) (細砂・地山ブロック、泥、埴土含む)
- 3 灰黄褐色粘質土 (Hac10785/2) (やや砂質、地山ブロック、泥、埴土含む)
- 4 暗灰色粘質土 (Hac10786/1) (堀の上面に段が多く入っている)
- 5 灰黄褐色粘質土 (Hac10784/2) (地山ブロック多く含む)
- 6 灰黄褐色粘質土 (Hac10784/2) (やや砂質)



SK39

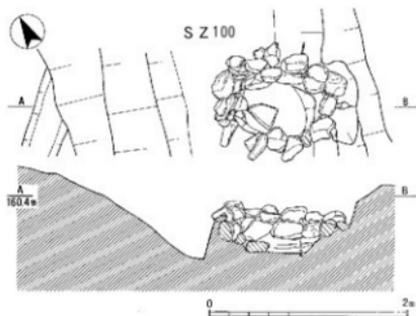


SK116

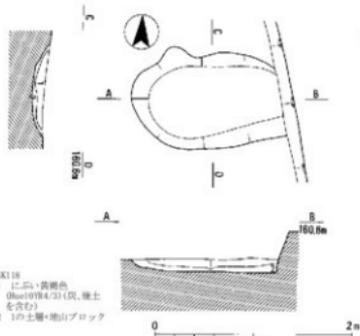


SZ100

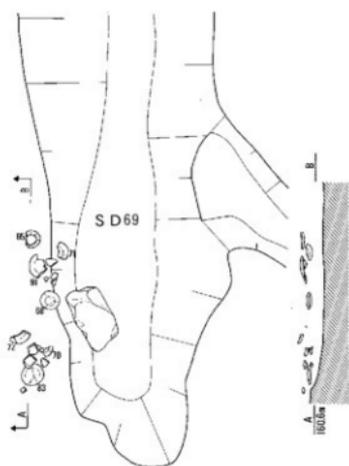
- 1 灰色シルト (Oha107/2) と灰白色細砂 (Oha107/1) の互層
- 2 オリーブ灰色粘質シルト (Oha107/1) (本質を含む)



SK118



φ 17φ SK44・118, SZ100²φ 17φ・25φ (1/50)



を調査対象ではなからうか。

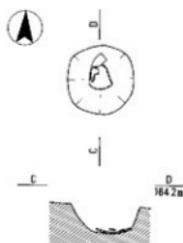
S K39 (号16号)

二神宮の東側において検出した古墳である。規模は、長さ13.7m、幅2.14m、深さ0.36mである。石室プランは、長方形である。石室は、扉などが含まれている。古墳内には、ピットが確認されている。遺物はピットから出土しており、古銅器 (104~105)、土器 (106・107) がある。遺構の当時は、13世紀代とみられる。

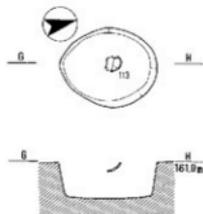
S K44 (号17号)

二神宮の西側において検出した古墳である。古墳の規模は、長さ4.25m、幅3.46m、深さ0.39mである。石室プランが長方形で、浅い古墳である。石室は、扉や焼土が多く含まれていた。遺物には、古銅器 (30)、羽釜 (31)、土器、土磁、土器がある。古墳は、石室差の古墳性がある。遺物の当時から13世紀代と思われる。

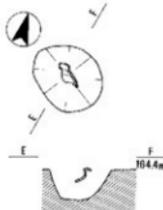
C 6 Pit13



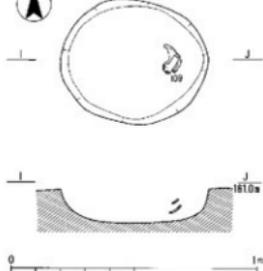
E 9 Pit4



C 2 Pit15



E 10 Pit12



号19号 S D69、C 6 Pit13、C 2 Pit15、E 9 Pit4、E 10 Pit12の調査報告 (1/20)

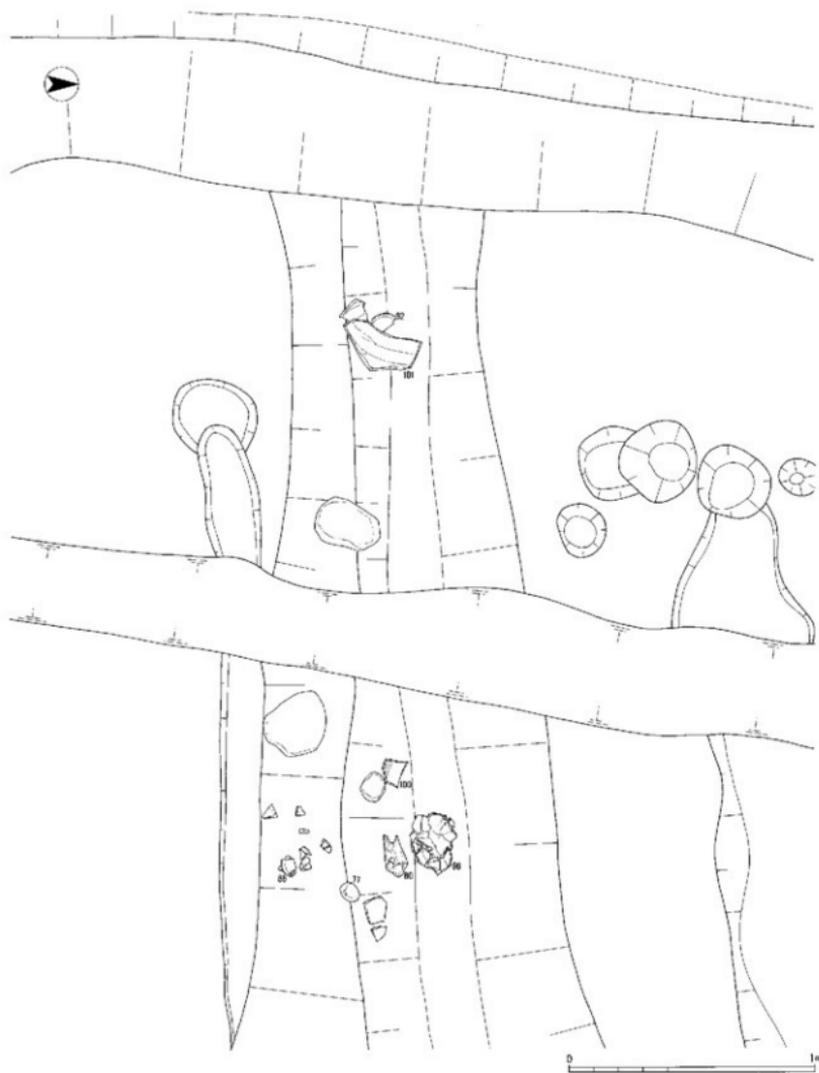
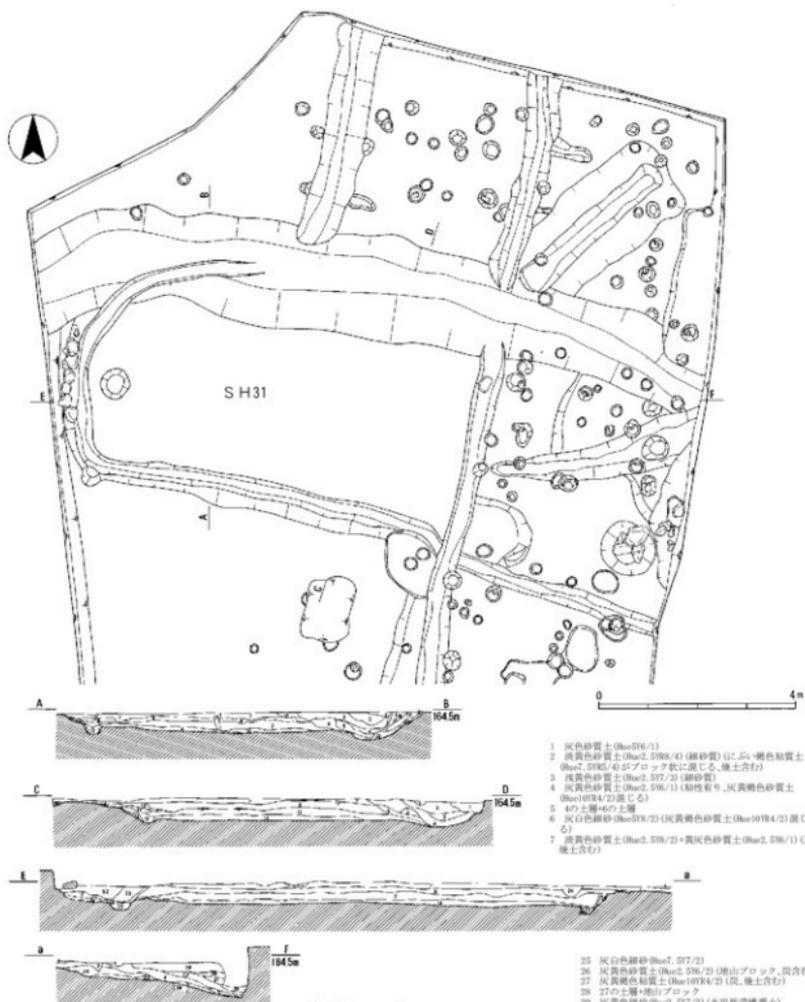


图20 65 S D65遗址平面图 (1/20)



图21 图 SD65遗址平面图 (1/20)



- 8 12の土層+黄灰色砂質土(0ha2.576/1)
- 9 浅黄色細砂(0ha2.577/3)
- 10 12の土層+黄灰色砂質土(0ha2.576/3)(8より黄灰色砂質土の混じり多し)
- 11 黄灰色砂土(0ha1078/1)(混、雑土含む)
- 12 粗灰黄色砂質土(0ha2.575/2)(しまり少ない、混、雑土含む)
- 13 黒褐色粘質土(0ha1078/2)+地山ブロック(42cm以上の大きさのものを含む)
- 14 黒褐色粘質土(0ha1078/2)(粘性が強い、混、雑土を多量に含む)(混)

- 15 灰色砂質土(0ha2.578/2)
- 16 暗褐色粘質土(0ha1078/3)(地山混ざり、混、雑土含む)
- 17 土に多い黄褐色砂質土(0ha1077/2)(18より灰色がかる)
- 18 土に多い黄褐色砂質土(0ha1077/2)
- 19 粗灰黄色砂質土(0ha2.575/2)(少し粘性有り)
- 20 黄褐色砂質土(0ha2.575/3)
- 21 土に多い黄褐色砂質土(0ha1078/3)(少し粘性有り、地山ブロック多く含む)
- 22 粗灰黄色砂質土(0ha1078/1)+土に多い黄褐色砂質土(0ha1078/1)(混、雑土含む)
- 23 暗褐色粘質土(0ha1078/2)(中や粘質有り、混、雑土含む)
- 24 暗褐色粘質土(0ha1078/2)+灰白色細砂(0ha7.577/2)

- 1 灰色砂質土(0ha576/1)
- 2 浅黄色粘質土(0ha2.578/4)(細砂質)(土に多い褐色粘質土(0ha2.575)の土ブロック状に混じり、雑土含む)
- 3 浅黄色砂質土(0ha2.577/3)(細砂質)
- 4 灰黄色砂質土(0ha2.576/1)(粘性有り、灰黄褐色砂質土(0ha1078/2)混じり)
- 5 砂の土層+6の土層
- 6 灰白色細砂(0ha578/2)+灰黄褐色砂質土(0ha1078/2)混じり)
- 7 浅黄色粘質土(0ha2.578/2)+黄灰色砂質土(0ha2.576/1)(混、雑土含む)

- 25 灰白色細砂(0ha7.577/2)
- 26 灰色砂質土(0ha2.578/2)(地山ブロック、混含む)
- 27 灰黄褐色粘質土(0ha1078/2)(混、雑土含む)
- 28 27の土層+地山ブロック
- 29 灰色粘質土(0ha7.577/2)(8同様連続層)
- 30 土に多い黄褐色粘質土(0ha1078/2)+地山ブロック
- 31 土に多い黄褐色粘質土(0ha1078/2)+土に多い黄色砂質土(0ha2.576/3)
- 32 33と同じ土層だが、土に多い黄色粘質土(0ha2.576/3)の割合が高い、雑土含む
- 33 暗褐色粘質土(0ha2.575/2)+土に多い黄色砂質土(0ha2.576/3)(混、雑土含む)
- 34 粗灰色砂質土(0ha1078/1)+土に多い黄褐色粘質土(0ha1078/1)(混、雑土含む)
- 35 灰黄褐色砂質土(0ha1078/2)(混、雑土含む)

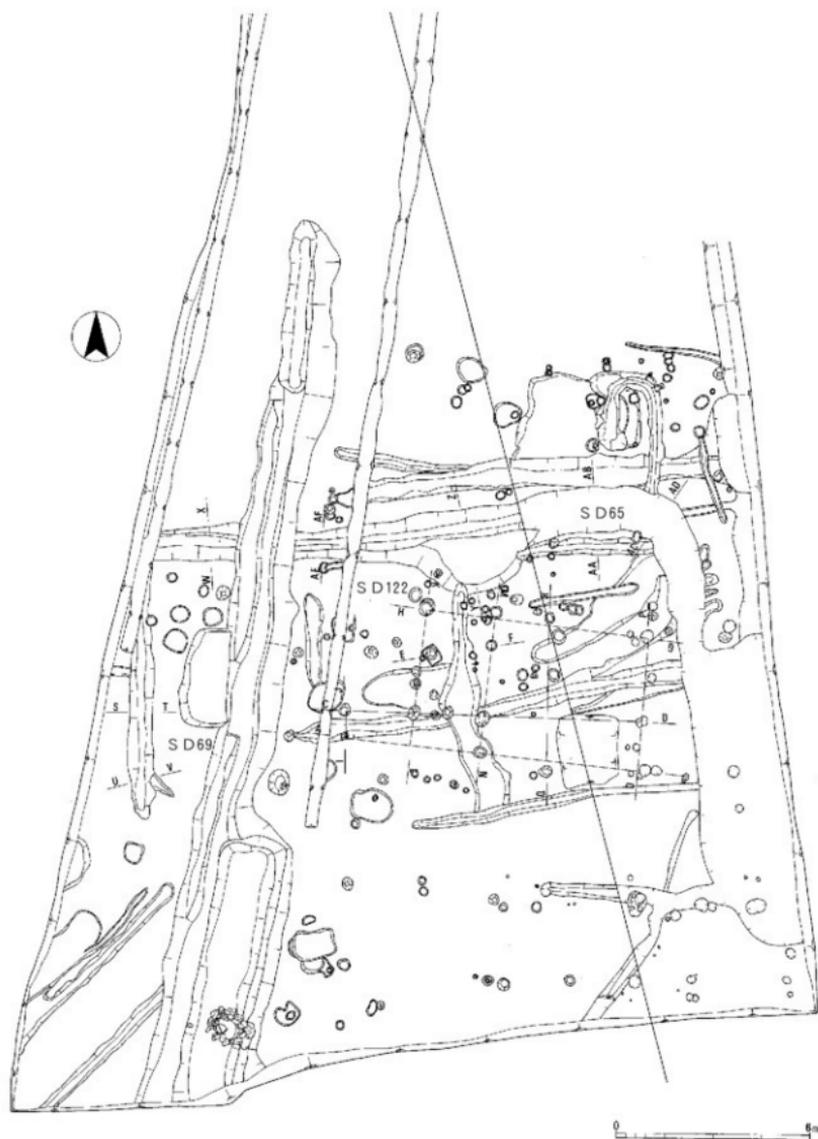
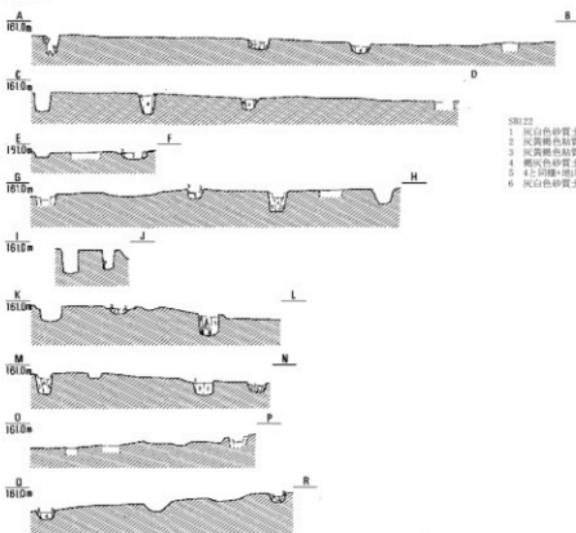


图 23 号 SB122 · SD65 · 69 号遗址 (1/150)

SB122

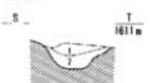


SB122

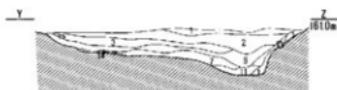
- 1 灰白色砂質土 (Soe10TR7/4)
- 2 灰黄褐色粘質土 (Soe10TR4/2) (灰、雑土含む)
- 3 灰黄褐色粘質土 (Soe10TR4/2) + 地山ブロック
- 4 褐色砂質土 (Soe10TR6/1) (粘性有り、粗砂混じる)
- 5 4と同様+地山ブロック
- 6 灰白色砂質土 (Soe10TR7/1) + 地山ブロック

0 4m

SD69



SD65



SD65

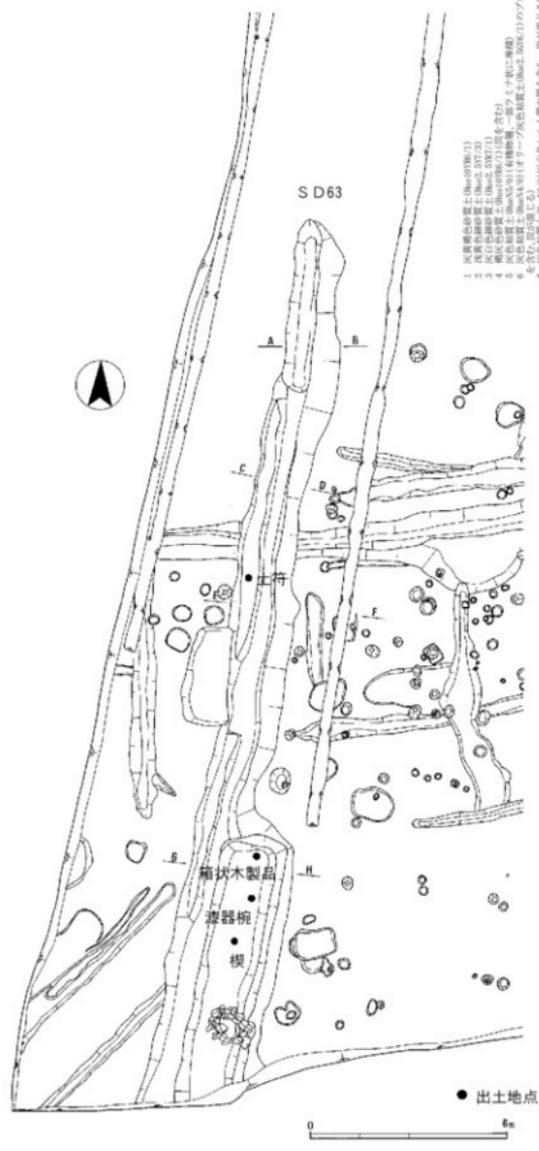
- 1 にぶい黄褐色砂質土 (Soe10TR6/4)
- 2 褐色砂質土 (Soe10TR5/1)

SD69

- 1 灰褐色粘質土 (Soe10TR5/2) (灰、雑土少し含む)
- 2 褐色粘質土 (Soe10TR3/1) (灰白色細砂 (Soe2.517/1) がブロック状に混じる)
- 3 灰黄褐色粘質土 (Soe10TR4/2) (灰、雑土、地山ブロック含む)
- 4 褐色粘質土 (Soe10TR5/1) (粘性強い、細砂少し含む)
- 5 灰黄褐色粘質土 (Soe10TR4/2) (灰、雑土、灰白色細砂 (Soe2.517/1) 含む)
- 6 灰白色細砂 (Soe2.517/1)
- 7 褐色粘質土 (Soe10TR2/1) (木質含む、有機物多)
- 8 灰白色細砂 (Soe2.517/1) + 明黄褐色粘質土 (Soe10TR7/4) ブロック
- 9 黄褐色粘質土 (Soe2.515/1) (粘性強い)
- 10 11より粗砂多含む砂質土
- 11 褐色粘質土 (Soe10TR4/1) (灰、細砂少し含む)
- 12 にぶい黄褐色粘質土 (Soe10TR4/2) (地山ブロック多含む)
- 13 褐色より強い粘質土 (Soe10TR4/1) (粘性強い)、灰、雑土、地山ブロック含む)
- 14 灰黄褐色粘質土 (Soe10TR6/2)
- 15 褐色粘質土 (Soe10TR5/1) + 地山ブロック
- 16 褐色粘質土 (Soe10TR6/1) + 地山ブロック
- 17 灰黄褐色粘質土 (Soe10TR4/2) + 地山ブロック

0 2m

図 24 ④ SB122・SD65・69 ④ (1/50・1/100)



- 1 灰褐色砂質土 (Hm=010706/1)
- 2 灰褐色砂質土 (Hm=010717/3)
- 3 灰褐色砂質土 (Hm=010717/4)
- 4 灰褐色砂質土 (Hm=010717/5)
- 5 灰褐色砂質土 (Hm=010717/6)
- 6 灰褐色砂質土 (Hm=010717/7)
- 7 灰褐色砂質土 (Hm=010717/8)
- 8 灰褐色砂質土 (Hm=010717/9)
- 9 灰褐色砂質土 (Hm=010717/10)
- 10 灰褐色砂質土 (Hm=010717/11)
- 11 灰褐色砂質土 (Hm=010717/12)
- 12 灰褐色砂質土 (Hm=010717/13)
- 13 灰褐色砂質土 (Hm=010717/14)
- 14 灰褐色砂質土 (Hm=010717/15)
- 15 灰褐色砂質土 (Hm=010717/16)
- 16 灰褐色砂質土 (Hm=010717/17)
- 17 灰褐色砂質土 (Hm=010717/18)
- 18 灰褐色砂質土 (Hm=010717/19)
- 19 灰褐色砂質土 (Hm=010717/20)
- 20 灰褐色砂質土 (Hm=010717/21)
- 21 灰褐色砂質土 (Hm=010717/22)
- 22 灰褐色砂質土 (Hm=010717/23)
- 23 灰褐色砂質土 (Hm=010717/24)
- 24 灰褐色砂質土 (Hm=010717/25)
- 25 灰褐色砂質土 (Hm=010717/26)
- 26 灰褐色砂質土 (Hm=010717/27)
- 27 灰褐色砂質土 (Hm=010717/28)
- 28 灰褐色砂質土 (Hm=010717/29)
- 29 灰褐色砂質土 (Hm=010717/30)
- 30 灰褐色砂質土 (Hm=010717/31)
- 31 灰褐色砂質土 (Hm=010717/32)
- 32 灰褐色砂質土 (Hm=010717/33)
- 33 灰褐色砂質土 (Hm=010717/34)
- 34 灰褐色砂質土 (Hm=010717/35)
- 35 灰褐色砂質土 (Hm=010717/36)
- 36 灰褐色砂質土 (Hm=010717/37)
- 37 灰褐色砂質土 (Hm=010717/38)
- 38 灰褐色砂質土 (Hm=010717/39)
- 39 灰褐色砂質土 (Hm=010717/40)
- 40 灰褐色砂質土 (Hm=010717/41)
- 41 灰褐色砂質土 (Hm=010717/42)
- 42 灰褐色砂質土 (Hm=010717/43)
- 43 灰褐色砂質土 (Hm=010717/44)
- 44 灰褐色砂質土 (Hm=010717/45)
- 45 灰褐色砂質土 (Hm=010717/46)
- 46 灰褐色砂質土 (Hm=010717/47)
- 47 灰褐色砂質土 (Hm=010717/48)
- 48 灰褐色砂質土 (Hm=010717/49)
- 49 灰褐色砂質土 (Hm=010717/50)
- 50 灰褐色砂質土 (Hm=010717/51)
- 51 灰褐色砂質土 (Hm=010717/52)
- 52 灰褐色砂質土 (Hm=010717/53)
- 53 灰褐色砂質土 (Hm=010717/54)
- 54 灰褐色砂質土 (Hm=010717/55)
- 55 灰褐色砂質土 (Hm=010717/56)
- 56 灰褐色砂質土 (Hm=010717/57)
- 57 灰褐色砂質土 (Hm=010717/58)
- 58 灰褐色砂質土 (Hm=010717/59)
- 59 灰褐色砂質土 (Hm=010717/60)
- 60 灰褐色砂質土 (Hm=010717/61)
- 61 灰褐色砂質土 (Hm=010717/62)
- 62 灰褐色砂質土 (Hm=010717/63)
- 63 灰褐色砂質土 (Hm=010717/64)
- 64 灰褐色砂質土 (Hm=010717/65)
- 65 灰褐色砂質土 (Hm=010717/66)
- 66 灰褐色砂質土 (Hm=010717/67)
- 67 灰褐色砂質土 (Hm=010717/68)
- 68 灰褐色砂質土 (Hm=010717/69)
- 69 灰褐色砂質土 (Hm=010717/70)
- 70 灰褐色砂質土 (Hm=010717/71)
- 71 灰褐色砂質土 (Hm=010717/72)
- 72 灰褐色砂質土 (Hm=010717/73)
- 73 灰褐色砂質土 (Hm=010717/74)
- 74 灰褐色砂質土 (Hm=010717/75)
- 75 灰褐色砂質土 (Hm=010717/76)
- 76 灰褐色砂質土 (Hm=010717/77)
- 77 灰褐色砂質土 (Hm=010717/78)
- 78 灰褐色砂質土 (Hm=010717/79)
- 79 灰褐色砂質土 (Hm=010717/80)
- 80 灰褐色砂質土 (Hm=010717/81)
- 81 灰褐色砂質土 (Hm=010717/82)
- 82 灰褐色砂質土 (Hm=010717/83)
- 83 灰褐色砂質土 (Hm=010717/84)
- 84 灰褐色砂質土 (Hm=010717/85)
- 85 灰褐色砂質土 (Hm=010717/86)
- 86 灰褐色砂質土 (Hm=010717/87)
- 87 灰褐色砂質土 (Hm=010717/88)
- 88 灰褐色砂質土 (Hm=010717/89)
- 89 灰褐色砂質土 (Hm=010717/90)
- 90 灰褐色砂質土 (Hm=010717/91)
- 91 灰褐色砂質土 (Hm=010717/92)
- 92 灰褐色砂質土 (Hm=010717/93)
- 93 灰褐色砂質土 (Hm=010717/94)
- 94 灰褐色砂質土 (Hm=010717/95)
- 95 灰褐色砂質土 (Hm=010717/96)
- 96 灰褐色砂質土 (Hm=010717/97)
- 97 灰褐色砂質土 (Hm=010717/98)
- 98 灰褐色砂質土 (Hm=010717/99)
- 99 灰褐色砂質土 (Hm=010717/100)

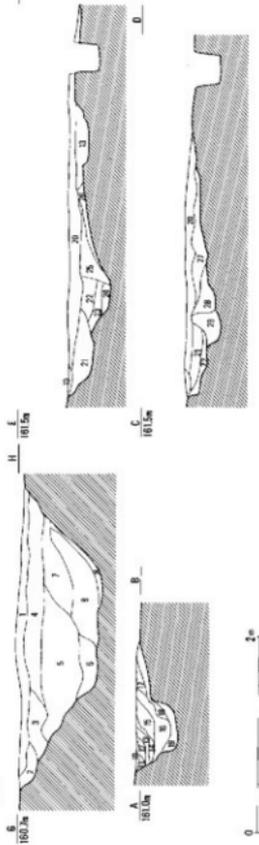


図 25 S D 63 遺跡の平面図 (1/150, 1/50)

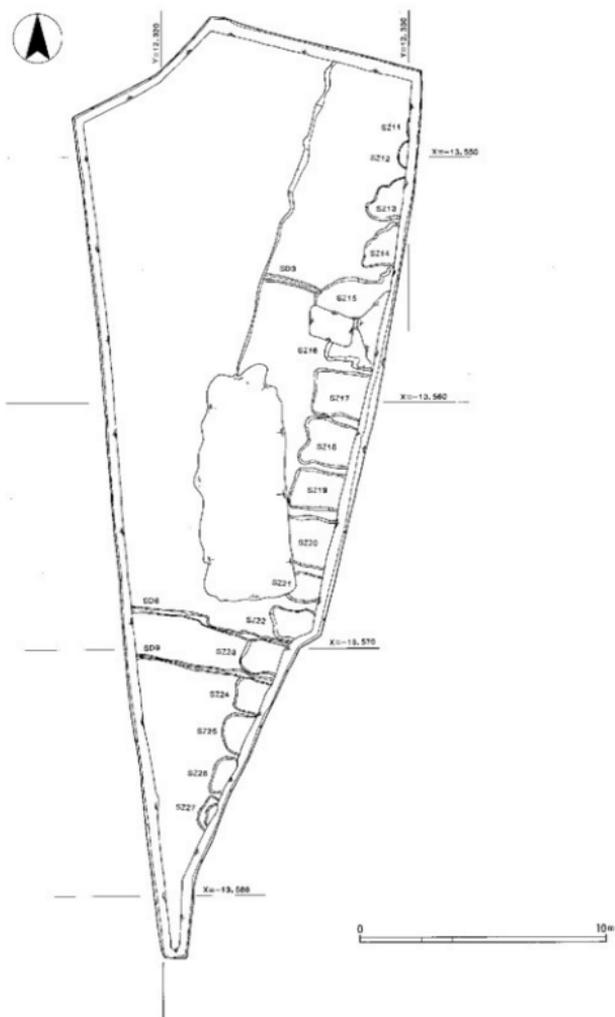




図27 ④ 土器・土器片の分布図(1/200)

S K 72

土器片のE11号において検出された土器である。遺構では、埋された遺構として捉えたもののSD69からの土の層の厚さが薄い。遺構検出時のコンクリートは、台形状である。規模は、長さ0.65m、幅0.58m、深さ0.04mである。遺構には、土器片(32~34)が埋まっている。遺構の時期は、15世紀後葉から16世紀初頭とみられる。

S K 86 (号18号)

土器片のE11号の南において検出された土器である。検出時のコンクリートは長方形である。土器の規模は、長さ3.38m、幅1.2m、深さ0.18mである。全体的に浅い状態を示す。SD63によって土器の大部分が埋められたとみられる。遺構には、土器片(37~38)が埋まっている。中でも土器片の口縁部付近で検出された土器が認められた。遺構の時期は、15世紀後葉から16世紀初頭とみられる。

S K 112 (号16号)

土器片のE11号の南において検出された土器である。土器の規模は、長さ1.07~1.14m、深さ0.42mである。コンクリートは、ほぼ方形である。土器には、土器片の口縁部付近によって検出された土器が認められた。遺構には、土器片(41)が埋まっている。遺構の時期は、13世紀後葉と見られる。

S K 116 (号16号)

土器片のE11号の南において検出された土器である。土器の規模は、長さ2.43m、幅1.11m、深さ0.11mである。土器には、土器片が多く含まれた。遺構には、土器片の厚さが厚い。遺構の時期は、

下甲である。

S K 124

土器片のE11号の南において検出された土器である。土器の規模は、長さ0.92m、幅0.7m、深さ0.1mである。土器は、ほぼ長方形である。遺構には土器片(43)、鉄片(42)がある。鉄片の上に覆われた土器の厚さがある。遺構の時期は、15世紀後葉から16世紀初頭とみられる。

S K 127

土器片のE11号の南において検出された土器である。遺構の規模は、長さ約6m、幅0.71m以上である。この遺構は、土器片にあたるために埋められている。また、SD65とほぼ平行して埋められているものである。遺構は、遺構検出時に埋められたものがあり土器片(44)がある。

また、SD65と接続していた溝にありだしていた土器片が薄いうえ、土器片の口縁部と平行して存在していたと想定できる。埋めしていないため断面は、できないが土器片の口縁部の土の厚さが薄い。遺構の時期は、15世紀後葉から16世紀初頭とみられる。

S D 65・69 (号19・20・21・23・24号)

土器片のE11号の南において検出された溝である。土器片形状が「コ」の字形状である。溝の規模は、土器片の部分で長さ15.87m、幅1.52m、深さ0.5m、土器片が埋められた部分で長さ13.52m、幅1.22m、深さ0.5m、土器片で長さ6.65m、幅0.64m、深さ0.21mである。

土器片のほぼ長方形が埋められており、埋められている。遺構は、この部分にあり、土器片(64~92)、土器片(93)、土器片(94)、土器片(95)、土器片(96)、土器片(99~101)、土器片(97~98)、土器片(103)、鉄片(102)が埋まっている。また、土器片の溝の断面は、土器片形状が土器片に埋められており土器片の口縁部ではないかと想定される。土器片には、この土器片と繋がる土器片がある。遺構の時期は、15世紀後葉から16世紀初頭とみられる。

S D 63 (号25号)

土器片のE11号の南において検出された溝である。土器片において深く浅く、断面において溝幅が広くなり、急激

| 報告遺構番号 | 調査時 遺構番号 | 地区 | グランド | 遺構種類 | 長 (m) | 幅 (m) | 深 (m) | 時期 | 出土遺物 | 備 考 |
|--------|-------------|----|-------------------------|-------|--------------|---------------|--------------|------|----------------------|--------------------------------|
| S D01 | — | 上 | A4, A5, B3, B4 | 旧跡作溝 | 11.30 | 1.05 | 0.10 | 近世以降 | — | 遺構カードのみに記録 |
| S D02 | — | 上 | B3~B6, C3 | 旧跡作溝 | 13.40 | 0.90 | 0.10 | 近世以降 | — | 遺構カードのみに記録 |
| S D03 | — | 上 | B4, C4 | 旧跡作溝 | 4.20 | 0.50 | 0.17 | 近世以降 | — | 遺構カードのみに記録 |
| S D04 | — | 上 | B4~B7, C3, C4 | 旧跡作溝 | 16.90 | 0.30 | 0.10 | 近世以降 | — | 遺構カードのみに記録 |
| S D05 | — | 上 | A3~D3 | 旧跡作溝 | 13.00 | 0.80 | 0.17 | 近世以降 | — | 遺構カードのみに記録 |
| S D06 | — | 上 | B4, C4 | 旧跡作溝 | 4.50 | 0.30 | 0.10 | 近世以降 | — | 遺構カードのみに記録 |
| S D07 | — | 上 | C4 | 旧跡作溝 | 1.40 | 0.40 | 0.10 | 近世以降 | — | 遺構カードのみに記録 |
| S D08 | — | 上 | A8~C8 | 旧跡作溝 | 6.60 | 0.30 | 0.04 | 近世以降 | — | |
| S D09 | — | 上 | A8, B8, C8 | 旧跡作溝 | 5.60 | 0.30 | 0.03 | 近世以降 | 摺鉢片 | |
| S T 11 | S X 11 | 上 | D3 | 水田跡 | 0.74 | 0.09 | 0.12 | 近世以降 | — | |
| S T 12 | S X 12 | 上 | D3 | 水田跡 | 1.09 | 0.40 | 0.21 | 近世以降 | — | |
| S T 13 | S X 13 | 上 | D3, D4 | 水田跡 | 1.70 | 1.33 | 0.16 | 近世以降 | — | |
| S T 14 | S X 14 | 上 | D4 | 水田跡 | 1.75 | 1.24 | 0.09 | 近世以降 | — | |
| S T 15 | S X 15 | 上 | D4, D5 C4, C5 | 水田跡 | 1.57 | 2.50 | 0.15 | 近世以降 | — | |
| S T 16 | S X 16 | 上 | C5, D5 | 水田跡 | 1.68 | 1.72 | 0.15 | 近世以降 | — | |
| S T 17 | S X 17 | 上 | C5, C6 D5, D6 | 水田跡 | 1.78 | 2.06 | 0.20 | 近世以降 | — | |
| S T 18 | S X 18 | 上 | C6 | 水田跡 | 1.94 | 1.84 | 0.13 | 近世以降 | — | |
| S T 19 | S X 19 | 上 | C6, C7 | 水田跡 | 1.62 | 2.01 | 0.15 | 近世以降 | — | |
| S T 20 | S X 20 | 上 | C7 | 水田跡 | 2.09 | 1.63 | 0.16 | 近世以降 | — | |
| S T 21 | S X 21 | 上 | C7, C8 | 水田跡 | 1.17 | 1.00 | 0.10 | 近世以降 | — | |
| S T 22 | S X 22 | 上 | C8 | 水田跡 | 1.20 | 1.65 | 0.15 | 近世以降 | — | |
| S T 23 | S X 23 | 上 | B8, C8 | 水田跡 | 1.36 | 1.53 | 0.12 | 近世以降 | — | |
| S T 24 | S X 24 | 上 | B8, C8 B9, C9 | 水田跡 | 1.33 | 1.16 | 0.09 | 近世以降 | — | |
| S T 25 | S X 25 | 上 | B9 | 水田跡 | 1.64 | 1.03 | 0.07 | 近世以降 | — | |
| S T 26 | S X 26 | 上 | B9 | 水田跡 | 1.56 | 0.79 | 0.05 | 近世以降 | — | |
| S T 27 | S X 27 | 上 | B9, B10 | 水田跡 | 1.34 | 0.61 | 0.08 | 近世以降 | — | |
| S D 28 | — | 上 | A3, B2, D4 | 溝 | 4.76 0.65 | 0.83 0.40 | 0.25 | 近世以降 | 石製品・土塊・瓦片 | 北から南、西へ屈曲する溝 |
| S D 29 | — | 上 | A3~D3, D4 | 溝 | 2.14 | 13.70 | 0.36 | 近世以降 | 摺鉢片・土師器片 | S32・S21を切る溝 |
| S D 30 | — | 上 | C5, C6, D6~D8 | 溝 | 11.64 | 0.47 | 0.27 | 古代 | 土師器片・須恵器片 | 地区を南北に縦断する溝 |
| S H 31 | S X 31 | 上 | A3~C3, A4~C4 | 竪穴建物 | 3.87 | 8.48 | 0.25 | 中世 | 土師器片・須恵器片・摺鉢片・瓦器片・土塊 | 竪穴長方形プランで、床面周囲に溝が回る溝の外側に一部石列残存 |
| S X 32 | — | 上 | C2, C3 D2, D3 | 古墳主体部 | 4.62 3.56 | 1.70 0.56 | 0.42 0.28 | 古墳 | 副葬品：勾玉、鉄剣、磁石等 | 割竹形木棺か |
| S D 33 | — | 上 | C4, D4 | 溝 | 0.64 | 4.11 | 0.20 | 古墳 | — | 古墳の周溝 |
| S D 34 | — | 上 | A3, A4, B4, C4 S, D5 | 溝 | 3.35 0.50 | 0.34 14.90 | 0.23 | 中世 | 摺鉢片・陶器片 | S21内をめぐる側溝又は壁溝 |
| S D 35 | — | 上 | C2 | 溝 | 0.32 | 0.85 | 0.10 | ? | — | — |
| S D 36 | — | 上 | C3 | 溝 | 0.09 | 0.26 | 0.05 | ? | — | — |
| S K 37 | — | 上 | B5, B6 C5, C6 | 土坑 | 2.21 | 1.76 | 0.16 | 中世 | 摺鉢片・瓦器片・土師器片 | 埋土に炭、焼土多量に含む |
| S K 38 | — | 上 | A6 | 柱穴 | 0.53 | 0.64 | 0.22 | 古代? | — | S8115のP12 |
| S K 39 | — | 上 | O6 | 土坑 | 1.53 | 1.17 | 0.25 | 中世 | 土師器片、瓦器片 | |

図 1-7 遺構配置図(1)

| 報告遺構番号 | 調査時 遺構番号 | 地区 | グランド | 遺構種類 | 長 (m) | 幅 (m) | 深 (m) | 時期 | 出土遺物 | 備 考 |
|--------|-------------|----|---------------------------|-------|-----------------------|---------------|-------------|------|-------------------------|-------------------------------|
| S H40 | S X40 | | C5, C6 D5, D6 | 竪穴住居 | 3.17 | 1.90 | 0.34 | 古代 | 土師器片・須恵器片・陶器片 | 壁溝内にビットあり 壁立の住居か |
| S H41 | S X41 | | B5, B6 C5, C6 | 竪穴建物 | 5.30 | 3.20 | 0.15 | 中世 | 土師器片・須恵器片・瓦器片 | 壁溝内にビットあり 壁立の住居か 壁溝が一部残る |
| S D42 | — | | B5, B6, C6 | 溝 | 3.65 0.46 | 0.43 2.38 | 0.17 | 中世 | — | SZ41の壁溝 |
| S D43 | — | | C6 | 溝 | 0.18 | 1.18 | 0.03 | 古代 | — | 竪穴住居の壁溝か |
| S K44 | — | | A8, B8 A9, B9 | 土坑 | 4.25 | 3.46 | 0.39 | 中世 | 土師器片・瓦器片・白磁片・青 磁片・土塊 | 礫土に混、焼土含む |
| S D45 | — | | A7, B7 | 溝 | 0.42 | 3.67 | 0.08 | 中世 | 土師器片・瓦器片 | |
| S D46 | — | | A7 | 溝 | 0.23 | 1.43 | 0.08 | ? | — | |
| S D47 | — | | A7, A8 | 溝 | 0.35 | 1.03 | 0.13 | ? | — | |
| S K48 | — | | B9 | 土坑 | 0.54 | 0.85 | 0.27 | 中世 | 陶器片 | |
| S D49 | — | | G2~G7, F8~ F11 | 現代埋設溝 | 37.50 | 0.40 | 0.40 | 現代 | — | 溝底に木柱が認められていた |
| S D61 | — | | G2, F2~F8, E8 ~E9, D10 | 現代埋設溝 | 33.70 | 0.50 | 0.30 | 現代 | — | 溝底に木柱が認められていた |
| S D63 | S R63 | | F7~F13, E8~ E13 | 溝 | 28.90 | 1.75 | 最厚部 0.98 | 中世 | 土師器片・土師器片・土持・常 滑甕 | 中世屋敷の礎? |
| S D64 | — | | E9~I9 | 溝 | 0.58 | 9.58 | 0.07 | ? | — | |
| S D65 | — | | E9~I9, I10~ I12 | 溝 | 南北方向 13.62 東西方向 | 1.22 15.87 | 0.50 | 中世 | 陶器破片・土師器片・網・鉄片 | 中世屋敷の礎 |
| S D67 | — | | E10, E11 | 溝 | 5.13 | 0.32 | 0.02 | 中世 | 瓦器片・土師器片 | |
| S D68 | — | | E10, E11 | 溝 | 4.57 | 0.22 | 0.06 | ? | — | |
| S D69 | — | | E9~E11, D11 | 溝 | 6.65 | 0.64 | 0.21 | 中世 | 瓦片・土師器片 | SD65が地区西隅で南に屈曲した同じ溝と考 えられる |
| S D70 | — | | D10 | 溝 | 0.29 | 0.65 | 0.05 | ? | — | |
| S Z72 | S X72 | | D11, E11 | 不明 | 0.65 | 0.58 | 0.04 | 中世 | 土師器片 | 土坑か |
| S D73 | — | | D11, D12 | 溝 | 1.90 | 1.07 | 0.10 | 中世? | 土師器片 | 耕作溝か |
| S D74 | — | | E12, D12, D13 | 溝 | 5.06 | 0.24 | 0.05 | 中世? | 土師器片 | 耕作溝か |
| S D75 | — | | E12, D12, D13 | 溝 | 6.51 | 0.38 | 0.09 | 中世? | 土師器片 | 耕作溝か |
| S D76 | — | | E12, E13, D13 | 溝 | 4.99 | 0.38 | 0.10 | 中世? | 土師器片 | 耕作溝か |
| S K77 | — | | F11, G11 | 土坑 | 1.31 | 1.01 | 0.15 | 古代? | 須恵器片 | |
| S K78 | — | | F12 | 覆土 | 0.85 | 1.31 | 0.15 | 不明 | 土師器片・須・須恵器片・灰輪 陶器 | 覆土 |
| S K79 | — | | F12 | 土坑 | 0.56 | 0.14 | 0.03 | ? | — | |
| S K80 | — | | F12 | 土坑 | 0.43 | 0.68 | 0.12 | ? | — | |
| S K81 | — | | F13 | 土坑 | 0.76 | 0.50 | 0.08 | 中世 | 南伊勢系土師器片 | |
| S K82 | — | | F11 | 土坑 | 0.76 | 0.60 | 0.28 | 近世以降 | 土師器片・近世陶器 | ビットの重複? |
| S K83 | — | | F10 | 土坑 | 1.02 | 1.06 | 0.02 | 近世以降 | 近世陶器 | |
| S K86 | S X86 | | E10 | 土坑 | 3.38 | 1.20 | 0.18 | 中世 | 土師器片 | |
| S D87 | — | | F8, G8, H8 | 溝 | 8.00 | 0.40 | 0.04 | 中世 | 瓦器片・土師器片 | |
| S D88 | — | | F9, F10 | 溝 | 2.72 | 0.46 | 0.22 | 中世 | 瓦片 | |
| S K89 | — | | F10 | 土坑 | 0.77 | 0.69 | 0.04 | ? | — | |
| S Z90 | S H90 | | G8~I8 | 不明 | 2.76 | 4.26 | 最厚部 0.28 | 中世 | 土師器片・陶器片 | 炭・礫が混集される U字形の溝をもつ |
| S D91 | — | | H9 | 溝 | 0.46 | 3.80 | 0.15 | 中世 | 土師器片・瓦器片・常滑甕片 | |
| S D92 | — | | H9, H10 | 溝 | 0.27 | 3.40 | 0.09 | 中世 | 南伊勢系土師器片 | |
| S D93 | — | | H9, I9 H10, I10 | 溝 | 4.66 | 1.10 | 0.09 | 中世? | — | |

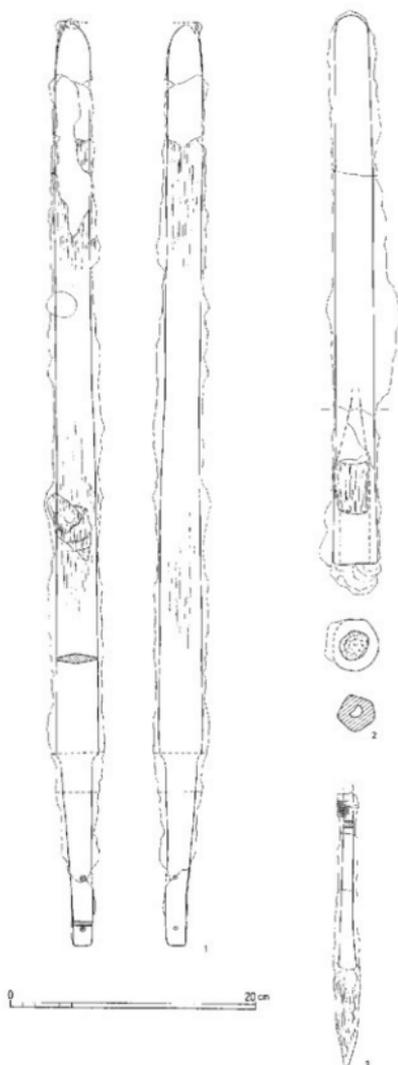
| 報告遺構番号 | 調査時 遺構番号 | 地区 | グランド | 遺構種類 | 長 (m) | 幅 (m) | 厚 (m) | 時期 | 出土遺物 | 備 考 |
|--------|-------------|----|----------------------|-------|-------|-------|-------|-----|---------------------------------|--------------------------------|
| SD94 | — | F | F10~H10, F11 | 溝 | 0.48 | 11.87 | 0.12 | 中世 | 土師器片・須恵器片・瓦器片・ 常滑焼片・南伊勢系土師器片 | |
| SD95 | — | F | H0, H10 | 溝 | 0.40 | 3.17 | 0.02 | 中世? | — | |
| SD96 | — | F | G11~I11 | 溝 | 0.40 | 8.82 | 0.04 | 中世? | — | |
| SD97 | — | F | I11, H12 | 溝 | 2.63 | 0.29 | 検出のみ | 中世? | — | 民有地内につき観測せず |
| SD98 | — | F | H12, H12 | 溝 | 0.55 | 5.47 | 0.06 | 中世 | 須恵器片・土師器片・瓦器片 | |
| SD99 | — | F | H12, H12, H13 | 溝 | 3.89 | 0.45 | 検出のみ | 中世 | 須恵器片・土師器片・瓦器片 | 民有地内につき観測せず |
| SZ100 | SX100 | F | E13 | 石組遺構 | 1.47 | 1.19 | 0.70 | 中世 | 須恵器片・土師器片 | SD63内に設置された、集水形状の石組 |
| SK101 | — | F | G8 | 土坑 | 0.56 | 0.53 | 0.48 | ? | — | |
| SK102 | — | F | G8 | 土坑 | 0.92 | 0.74 | 0.10 | ? | — | |
| SK103 | — | F | G8 | 土坑 | 0.79 | 0.83 | 0.10 | ? | — | |
| SD104 | — | F | F19 | 溝 | 2.70 | 0.20 | 0.07 | 中世 | — | |
| SD105 | — | F | F19 | 溝 | 0.50 | 0.33 | 0.01 | 中世 | — | |
| SD106 | — | F | F19 | 溝 | 0.27 | 0.27 | 0.05 | 中世 | — | |
| SD107 | — | F | F19 | 溝 | 0.35 | 0.41 | 0.11 | 中世 | — | |
| SD108 | — | F | F19 | 溝 | 0.21 | 0.44 | 0.05 | 中世 | — | |
| SD109 | — | F | I9, H10 | 溝 | 0.35 | 0.59 | 0.05 | 中世 | — | |
| SK110 | — | 上 | B4, C4 B5, C5 | 土坑 | 1.45 | 1.06 | 0.26 | ? | — | |
| SK111 | — | 上 | C4 | 土坑 | 1.27 | 1.12 | 0.30 | 中世 | 瓦器片・鐵鉢片 | |
| SK112 | — | 上 | D4 | 土坑 | 1.07 | 1.14 | 0.42 | 中世 | 瓦器片・土師器片 | 内部に集石 |
| SB115 | — | 上 | A6, B6 | 竪立柱建物 | 2.82 | 2.84 | — | 古代 | — | 検出した銅蓮ビット7個 建物固有のPit ナンバあり |
| SZ116 | SX116 | F | F10, G10 | 不明 | 1.11 | 2.43 | 0.11 | 中世 | 土師器片・須恵器片・陶器片 | 炭、焼土を多量に含んだ部分あり |
| SD117 | — | F | G9, G10, G11 | 溝 | 6.96 | 1.25 | 0.26 | 古代 | 土師器片 | 埋土は黒色土 |
| SK118 | — | F | H11 | 土坑 | 1.60 | 0.93 | 0.10 | ? | — | |
| SD119 | — | F | F12, F13 | 溝 | 3.40 | 0.49 | 0.09 | ? | — | |
| SH120 | — | F | H12, H13 | 彫穴住居 | 1.71 | 2.62 | 0.29 | 古代 | 土師器片 | 埋土は黒色土 |
| SK121 | — | F | F13 | 土坑 | 0.45 | 0.51 | 0.24 | 古代 | 土師器片 | |
| SB122 | — | F | F10~H10, F11 ~H11 | 竪立柱建物 | 9.09 | 4.24 | — | 中世 | — | 検出した銅蓮ビット12個 建物固有の Pitナンバあり |
| SK124 | — | 上 | C5 | 土坑 | 0.92 | 0.70 | 0.10 | 中世 | 土師器片・須恵器片・瓦器片・ 鉄片 | |
| SD125 | — | F | H8, H8 | 溝 | 3.00 | 0.20 | 0.06 | 中世? | — | |
| SK126 | — | F | | 土坑 | 1.20 | 0.95 | 0.06 | 古代 | — | |
| SK127 | — | F | I8 | 土坑 | 2.11 | 0.71 | 検出のみ | 中世 | 土師器片・陶器片・瓦器片 | 民有地内につき観測せず |

第3章 遺構 ③

[遺構 ③の ③]

報告に記載した遺構の一部分は、以下の図によって示された。

- 1 一部分が遺構番号及び遺構当遺構番号は、発掘調査における遺構の名称・位置が同一に思わす遺構番号である。ただし、遺構当遺構番号は、発掘調査において示したものである。また、本図において掲載した遺構番号は、報告書に基づいて作成している。遺構当遺構番号は、図中に記載している。なお、遺構番号は遺構の同じく同一に思わす遺構番号と示している場合と示していない場合がある。
- 2 遺構及びグリッドについては、遺構番号の図面に示してある。グリッドについては、4mメッシュによって示されたものである。本図については、報告書の遺構番号で示している。
- 3 埋土については、遺構の位置によって示している。
- 4 規模については、長さ、幅、深さをメートル単位で記載した。
- 5 当遺構については、遺構の同じく遺構番号によって示した。
- 6 同じ遺構については、遺構から示しているものを示した。
- 7 遺構については、本図において示していない埋土について示した。



頭のものと思われる。

S K 78 びこ 透針 (35~36)

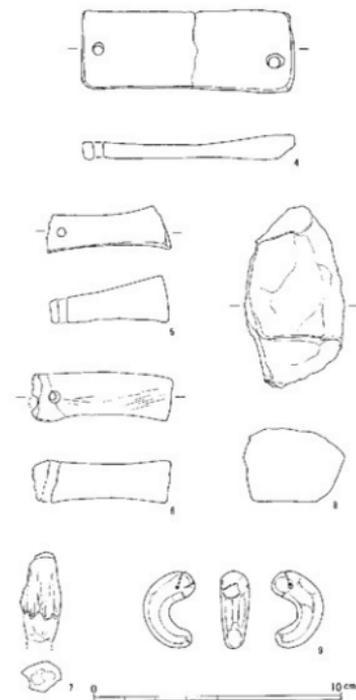
透針には、灰矽質器の焼 (35) と石製器の 2 藏部 (36) が目に見える。灰矽質器焼は 3 世時代のもの。

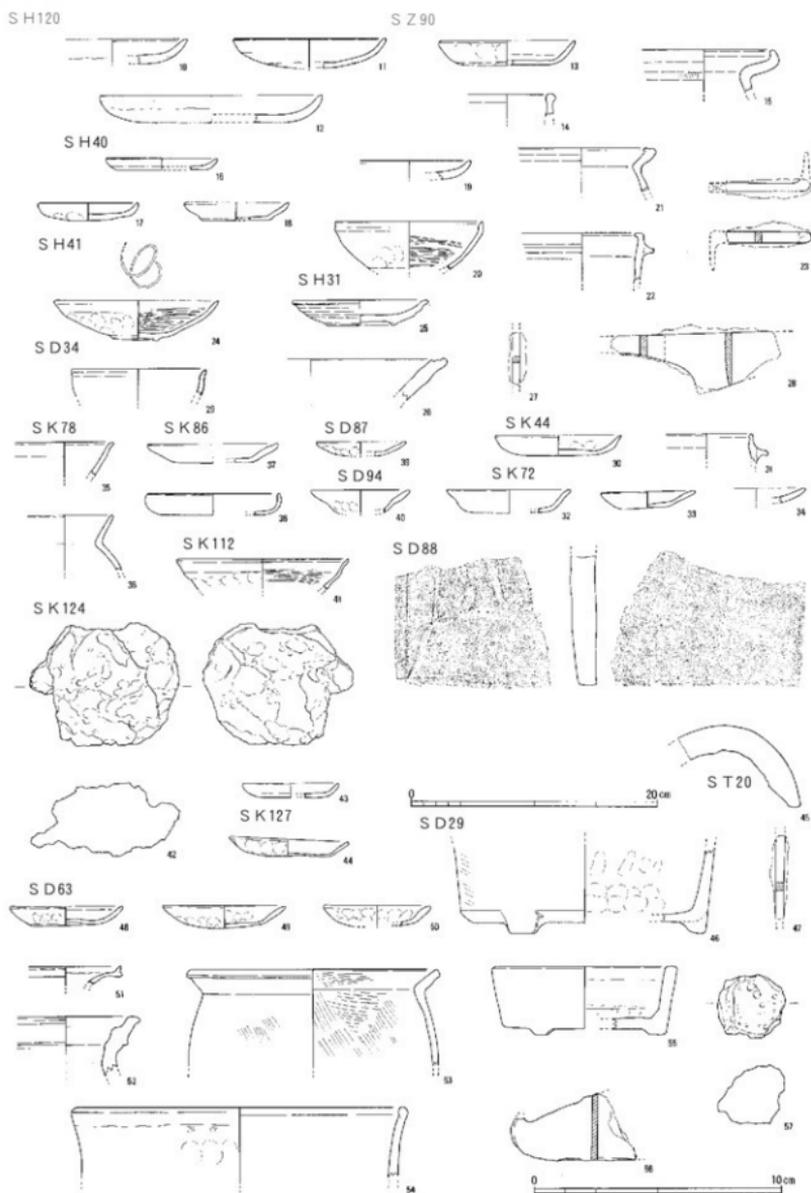
S K 86 びこ 透針 (37~38)

石製器、38は、器厚が薄く、埃沖子より 5 多倍にちぢがる。15 世紀後葉から 16 世紀前葉のものと思われる。

S D 87 びこ 透針 (39)

石製器である。底部は、欠損している。15 世紀後葉から 16 世紀前葉のものと思われる。





第29図 土器・金属器(2)(23・27・28・42・47・56~57は1/2、その他1/4)

S D94びび透抄 (40)

びび伊摺である。びび織部は厚みをもち、唇部は薄くなっている。

S K112びび透抄 (41)

透抄は、瓦器製である。唇部を含め唇部が欠損

している。13世紀代のものであろう。

S K124びび透抄 (42-43)

びび伊摺がみがある。びび織部は、男々状に広がる。43は、無汗である。びび伊摺は、15世紀前半から16世紀前半のものと思われる。

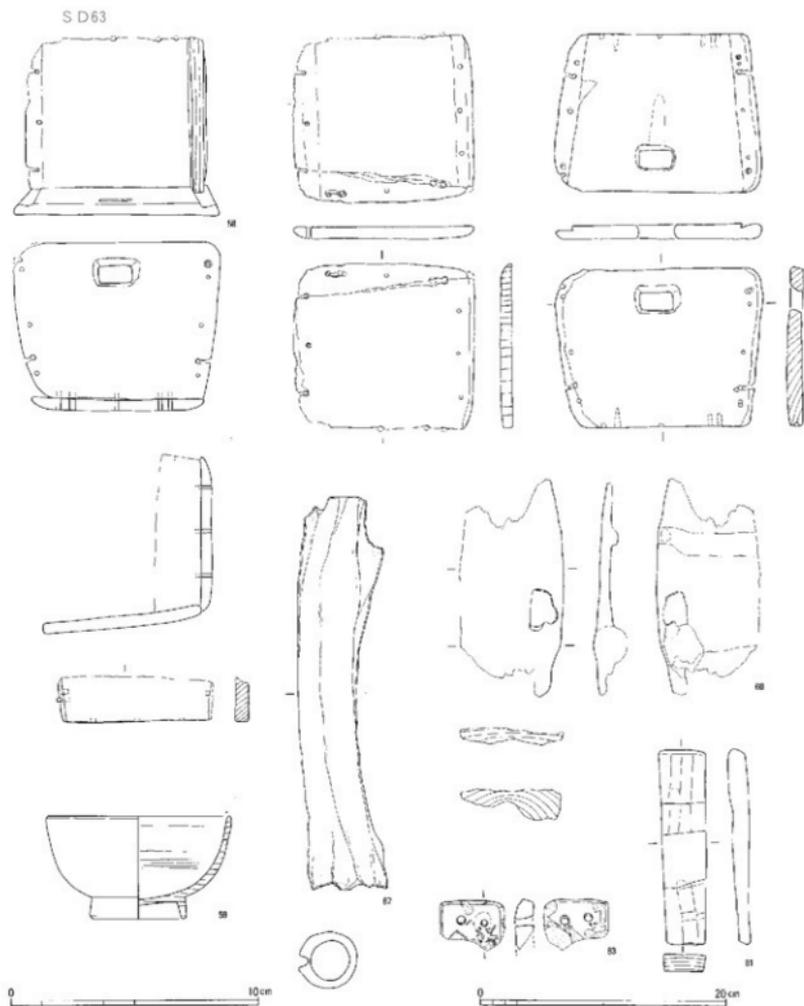


図30 びび透抄(40) (3) (62は1/2, その他1/4)

S K 127びび通鉢 (44)

びび器のびびがある。全体的に薄手のつくりである。
15世紀前半から16世紀前半のものと思われる。

S D 88びび通鉢 (45)

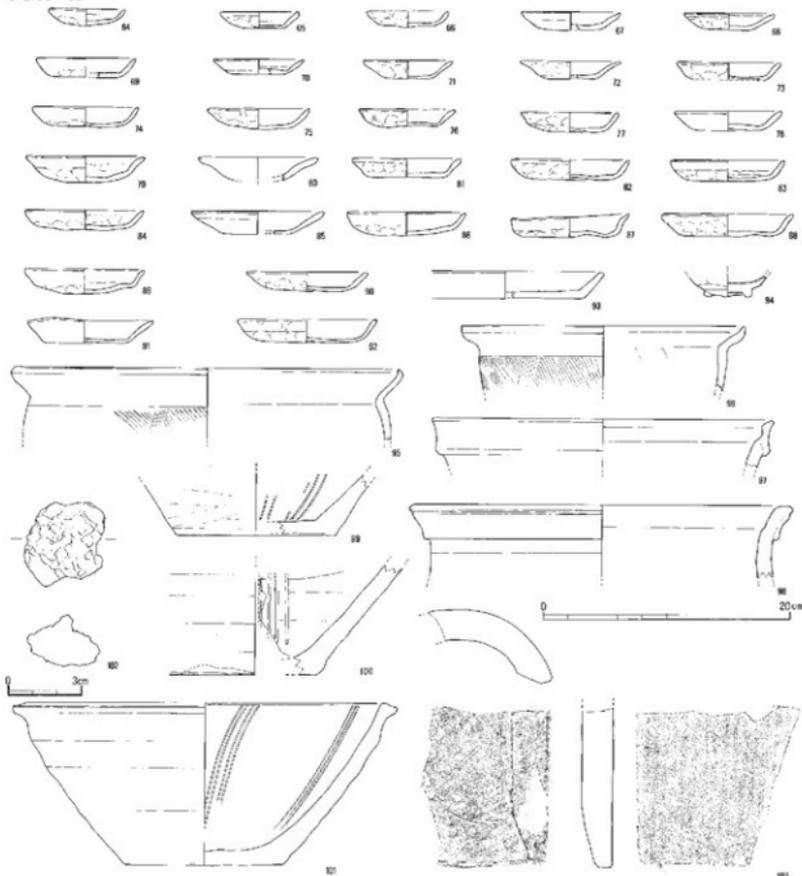
びびである。全体の1/3程度皮肉をしている。15
世紀前半から16世紀前半のものと思われる。

S D 29びび通鉢 (46)

46は、互割代鉢である。15世紀前半のものであろう。

S T 20びび通鉢 (47)

S D 65・69



鉄製品のびびか塗とみられる。S T 20は、六ツ鉢と
判断されるため、唐通鉢からの混じり込みと思われる。
びび器のびびのものであろうか。

S D 63びび通鉢 (48~63)

通鉢には、筒状の製品 (58)、漆器鉢 (59)、びび
(60)、椀 (61) などがあり、びび器では、びび器
(48~50)、鉢 (51)、鉢 (53)、鉢 (54)、青器鉢
(52)、互割代鉢 (55)、それ以外に鉄の鉢 (62)、び
び (63)、鉄製品の一部 (56)、鉄鉢 (57) が存在し

図31 びび通鉢 (4) (102は1/2、その他1/4)

Pit出土遺物

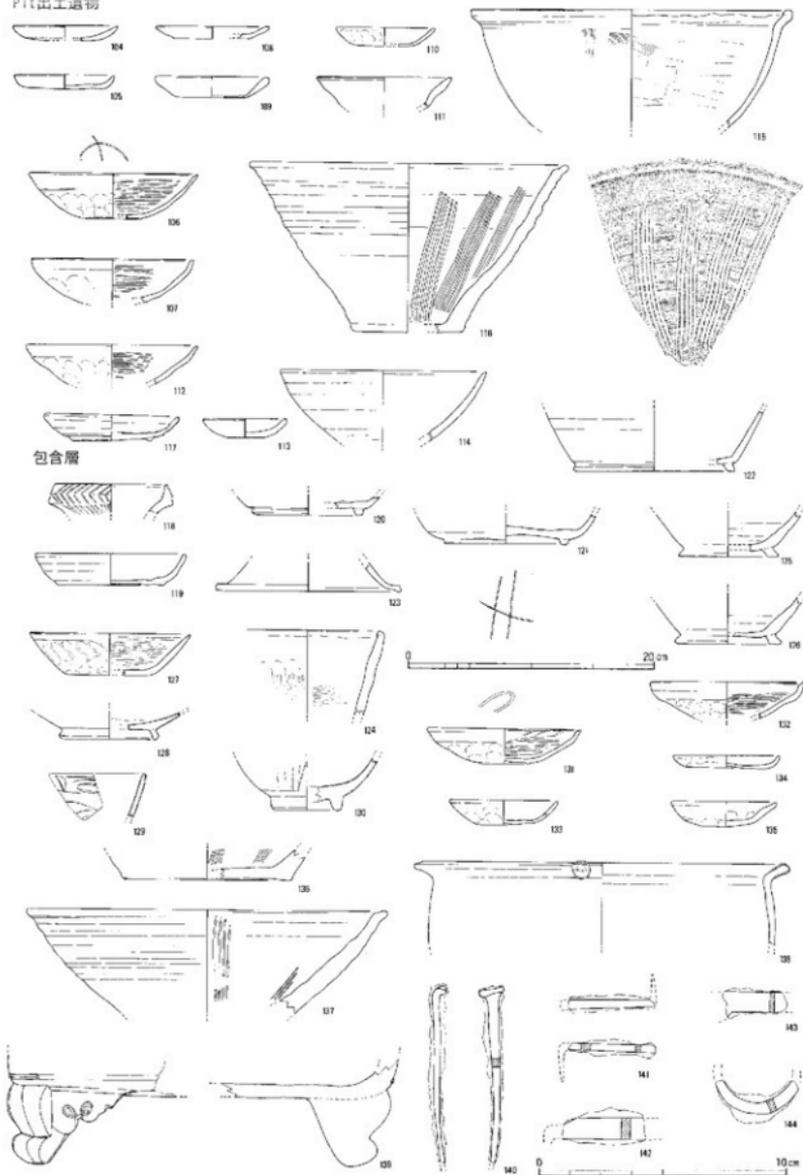


図32 土坑遺物(5) (140~144は1/2, その他1/4)

143はアリの巣である。144は、下甲品である。
果状のものである。(秋原光彦)

【考名と材】

伊原中「こがすけ」さら篇(2005)

母りま甲「伊原中における丸蓋に関する見聞」『伊原中と蓋の芸術甲XX』(コナミ堂と蓋研究会編 2006)

コナミ「伊原の丸蓋に関するまごの文章」『伊原中と蓋の芸術甲II』(コナミ堂と蓋研究会編 1986)

青森公甲「丸蓋中における丸蓋と蓋の芸術」(巻子本紙質博物館研究第19号 1998)

たけまこ「目録紙のさら巻の甲子」(サンライズ日録 2003)

伊原中編「伊原中伊原家の歴史に関する一断面」『Mic history vol. 1』(三多堂と巻甲研究会 1990)

コナミ「伊原中伊原家の歴史」『Mic history vol. 1』(三多堂と巻甲研究会 1990)

丸蓋研究会・資料委員会「丸蓋・紙質」『巻子集』(伊原中と巻甲研究会)『巻子集』(巻子集研究会編第71号 1997)

コナミ「こがすけ」—さら巻の蓋の歴史と芸術—『さら巻研究会 第8号』(1992)

コナミ「こがすけ」(巻子集研究会委員会 1994)

| No. | 物産番号 | 産種 | 出土位置 | 口径 (cm) | 高さ (cm) | その他 (mm) | 調査技法の特長 | 胎土 | 構成 | 色調 | 保存 | 備考 |
|-----|--------|--------|----------------------|---------------|------------|--------------|--|-----|--------------------------|---|-------------|--------------------------|
| 1 | 029-01 | 鉄製品 鉄釘 | C 3 S X 32 土壌層 | - | - | 長さ 78.4 | - | - | - | - | - | 柄の本質部分が一部残る。 |
| 2 | 023-01 | 鉄製品 針 | C 3 S X 32 土壌層 | - | - | 残存長さ 23.8 | - | - | - | - | - | 取り上げNo.4 |
| 3 | 022-01 | 鐵鈎 | C 3 S X 32 土壌層 | - | - | 残存長さ 11.2 | - | - | - | - | - | 鐵鈎質・木質成分残る。 取り上げNo.1 |
| 4 | 023-04 | 石製品 砥石 | C 3 S X 32 土壌層 | - | 長さ 8.55 | 厚さ 1 | - | - | - | - | - | 取り上げNo.3 |
| 5 | 023-03 | 石製品 砥石 | C 3 S X 32 土壌層 | - | 長さ 5 | 厚さ 2 | - | - | - | - | - | 取り上げNo.3 |
| 6 | 023-02 | 石製品 砥石 | C 3 S X 32 土壌層 | - | 長さ 5.6 | 厚さ 1.7 | - | - | - | - | - | - |
| 7 | 022-03 | 鉄製品 釘 | C 3 S X 32 土壌層 | - | - | 残存長さ 3.7 | - | - | - | - | - | 木質成分残る。 |
| 8 | 023-05 | 自然石? | C 3 S X 32 土壌層 | - | 長さ 7.4 | 厚さ 4 | - | - | - | - | - | - |
| 9 | 013-06 | 勾玉 | C 3 S X 32 | 長さ 3.1 | 高さ 2.1 | 幅 1.15 | - | - | - | - | - | 完形 長さ6.23g・石質（緑色顔料混入） |
| 10 | 011-02 | 土師器 皿 | S H129 高塚 | - | 高さ 2.4 | - | 内面：ナブ、口縁部ココナブ 外面：ナブ | 滑 | - | にぶい黄褐色 10Y R 7/3 | 口縁部 小片 | - |
| 11 | 020-07 | 土師器 小皿 | S H129 高塚 | 12.4 | 高さ 2.4 | - | 内面：ナブ、口縁部ココナブ 外面：ナブ | 滑 | - | 褐色 5Y R 6/6 | 約30% | - |
| 12 | 017-07 | 土師器 小皿 | H12 S H129 | 18 | 2.1 | - | 内面：ナブ、口縁部ココナブ 外面：ナブ | やや滑 | (1~2mmの砂粒含む) | 淡黄褐色 10Y R 8/7 | 約30% | - |
| 13 | 000-05 | 土師器 小皿 | H 8 S H160 | 11 | 2 | - | 内面：ナブ、口縁部ココナブ 外面：ユビオオスエ、ナブ | 滑 | - | にぶい黄褐色 10Y R 7/3 淡黄褐色 10Y R 5/2 | 約20% | - |
| 14 | 016-07 | 土師器 羽釜 | H 9 S H190 | - | 高さ 1.9 | - | 内外面：ナブ | やや滑 | (1~2mmの砂粒含む) | 暗褐色 7.5Y R 6/6 | 口縁部 小片 | - |
| 15 | 021-01 | 土師器 鉢 | H 8 S H160 高塚 | - | 高さ 3.4 | - | 内面：ナブ、口縁部ココナブ 外面：ナブ、ハケ | 滑 | - | 灰白色 2.5Y 7/ 灰白色 2.5Y 7/1 | 口縁部 小片 | - |
| 16 | 013-04 | 土師器 小皿 | D 5 S H160 | 9 | 3.65 | - | 内面：ナブ、口縁部ココナブ 外面：ユビオオスエ、ナブ | 滑 | - | 淡黄褐色 10Y R 8/4 | 約30% | - |
| 17 | 017-03 | 土師器 小皿 | D 5 S H160 | 8.2 | 1.5 | - | 内面：ナブ、口縁部ココナブ 外面：ユビオオスエ、ナブ | やや滑 | (1~2mmの砂粒含む) | 褐色 5Y R 7/6 | 約50% | - |
| 18 | 017-05 | 土師器 小皿 | D 5 S H160 | 8.5 | 1.45 | - | 内面：ナブ、口縁部ココナブ 外面：ユビオオスエ、ナブ | 粗 | (1~2mmの砂粒含む) | 灰白色 10Y R 6/2 | 約30% | - |
| 19 | 017-06 | 土師器 小皿 | D 5 S H160 | - | 高さ 1.5 | - | 内面：ナブ、口縁部ココナブ 外面：ナブ | やや滑 | - | 淡黄褐色 10Y R 8/7 | 口縁部 小片 | - |
| 20 | 016-03 | 瓦器 椀 | D 5 S H160 | 12 | 高さ 4 | - | 内面：ミヅギ、口縁部ココナブ 外面：ナブ、オオスエ | 滑 | 良 | 灰 色 N5/0 | 約30% | - |
| 21 | 016-05 | 瓦器土師 椀 | D 5 S H160 | - | 高さ 3.6 | - | 内外面：ナブ | 良 | 灰 色 N4/0 黄褐色 灰白色 N8/0 | 口縁部 小片 | - | - |
| 22 | 016-06 | 瓦器土師 椀 | D 5 S H160 | - | 高さ 3 | - | 内面：ナブ 外面：ナブ、隅面貼り付け残ナブ | やや滑 | (1~2mmの砂粒含む) | 黄褐色 灰白色 N3/0 黄褐色 灰白色 2.5Y 8/2 | 口縁部 小片 | - |
| 23 | 024-08 | 鉄製品 針 | D 5 S H160 | - | - | 残存長さ 2.5 | - | - | - | - | - | - |
| 24 | 016-02 | 瓦器 椀 | B 6 S H11 | 13.3~ 13.6 | 3.25 | 高さ 3.6 | 内面：ミヅギ、口縁部ココナブ 外面：ナブ、オオスエ、高台貼り 付け残ナブ | 滑 | 良 | 灰 色 N4/0 灰白色 N8/0 | 約90% | - |
| 25 | 017-02 | 陶器 皿 | B 4 S H31 | 11 | 2.05 | 高さ 5.6 | 内面：ロクロナブ、高台貼り 付け残ナブ 外面：ロクロナブ、隅面貼り 付け残ナブ | 滑 | 良 | 内外面（陶質）：灰白色 2.5Y R 6/2 外面（陶質）：灰白色 5Y 8/2 | 約30% | - |
| 26 | 015-08 | 陶器 椀鉢 | A 4 S H30 高塚 | - | 高さ 3.5 | - | 内面：高台ナブ、口縁部ココナブ 外面：高台ナブ | やや滑 | (~3mmの砂粒含む) | 外面：灰白色 10Y R 8/2 内面：灰白色 2.5Y 8/1 | 口縁部 小片 | - |
| 27 | 024-07 | 鉄製品 角釘 | C 4 S H31 | - | - | 残存長さ 2.1 | - | - | - | - | - | - |
| 28 | 022-02 | 刀子 | A 3・B 3 S H21 | - | - | 残存長さ 6.3 | - | - | - | - | - | 鉄錆の可能性もある。 |
| 29 | 012-03 | 陶器 椀 | C 4 S D34 | 約11 | 高さ 2.3 | - | 内外面：鉄粒 | 滑 | 良 | 内外面（陶質）：黄褐色 7.5Y R 5/2 外面（陶質）：灰白色 5Y 8/1 | 口縁部 約20% | - |
| 30 | 012-08 | 土師器 小皿 | A 8 S K 64 | 2.15 | 高さ 5.9 | - | 内面：ナブ 外面：ナブ | やや滑 | (金雲母含む) | 外面：黄褐色 10Y R 6/1 内面：にぶい黄褐色 10Y R 7/2 | 約20% | - |
| 31 | 012-07 | 土師器 羽釜 | B 8 S K 64 | - | 高さ 2.2 | - | 内面：ナブ、口縁部ココナブ 外面：ココナブ、隅面貼り付け 残ナブ | やや滑 | - | 淡黄褐色 10Y R 8/3 | 口縁部 小片 | - |
| 32 | 014-02 | 土師器 小皿 | E 11 S K 72 | 19 | 1.9 | - | 内面：ナブ、口縁部ココナブ 外面：ナブ | 滑 | (~1mmの砂粒含む) | 外面：黄褐色 5Y R 4/4 内面：にぶい黄褐色 10Y R 7/3 | 約30% | - |
| 33 | 014-06 | 土師器 小皿 | E 12 S K 72 | 7.6 | 1.4 | - | 内面：ナブ、口縁部ココナブ 外面：ナブ | 滑 | - | にぶい黄褐色 10Y R 7/4 | 約90% | - |
| 34 | 015-07 | 土師器 小皿 | E 11 S K 72 | - | 高さ 1.2 | - | 口縁部ココナブ | 滑 | - | にぶい黄褐色 10Y R 7/3 | 口縁部 小片 | - |
| 35 | 021-03 | 灰物陶器 椀 | F 12 S K 78 | - | 高さ 2.9 | - | 内面：ロクロナブ 外面：ロクロナブ | 良 | 良 | 灰黄色 2.5Y 6/2 | 口縁部 小片 | - |
| 36 | 009-06 | 土師器 椀 | F 12 S K 78 | - | 高さ 4.5 | - | 内面：ナブ、口縁部ココナブ 外面：ナブ | 滑 | (鉄砂粒含む) | にぶい黄褐色 10Y R 5/4 | 約20% | - |
| 37 | 014-05 | 土師器 小皿 | F 9 S K 96 | 10.6 | 1.6 | - | 内面：ナブ、口縁部ココナブ 外面：ナブ | 滑 | (~2mmの砂粒含む) | にぶい褐色 7.5Y R 7/4 | 約50% | - |
| 38 | 015-03 | 土師器 小皿 | F 9 S K 96 | 10.8 | 1.75 | - | 内面：ナブ、口縁部ココナブ 外面：ナブ | 滑 | - | にぶい黄褐色 10Y R 7/3 | 約30% | - |
| 39 | 019-08 | 土師器 小皿 | H 9 S D47 | 7.3 | 高さ 1.2 | - | 内面：ナブ、口縁部ココナブ 外面：ユビオオスエ、ナブ | 滑 | (~0.5mmの砂粒含む) | 淡黄褐色 7.5Y R 8/4 | 約30% | - |
| 40 | 011-06 | 土師器 小皿 | H 19 S D48 | 8 | 高さ 1.8 | - | 内面：オオスエ、ナブ、口縁部ココナブ 外面：オオスエ、ナブ | やや滑 | - | 灰白色 2.5Y 7/1 | 口縁部 小片 | - |
| 41 | 019-06 | 瓦器 椀 | D 5 S K 112 | 13.8 | 高さ 2.5 | - | 内面：ミヅギ、口縁部ココナブ 外面：ナブ、オオスエ | 滑 | 不良 | 外面：灰白色 5Y 8/1 内面：灰 色 N4/0 灰白色 N8/0 | 口縁部 約20% | - |
| 42 | 024-10 | 鉄釘 | D 5 S K 124 | - | - | 長さ 107g | - | - | - | - | - | - |
| 43 | 019-09 | 土師器 小皿 | D 5 S K 124 | 7.8 | 1.1 | - | 内面：ナブ、口縁部ココナブ 外面：ユビオオスエ、ナブ | 滑 | (雲母含む) | 淡黄褐色 7.5Y R 8/4 | 約30% | - |

44 土師器 小皿(1)

| No. | 物名 番号 | 品名 | 出仕数量 | 仕様 (mm) | 長さ (m) | その他 (m) | 調査技術の特長 | 跡土 | 構成 | 色調 | 残存 | 備考 |
|-----|----------|--------|----------------|------------|--------------|----------------|--|-----|----|---------------------------------------|-------------|-----------|
| 44 | 019-04 | 土師器 小皿 | F 18 S K127 | 9.7 | 1.4 | - | 内面：ナツ、白線部コナダ 外面：ユビオオエ、ナツ | 漆 | - | 外面：浅黄褐色 10Y R8/3 内面：浅黄褐色 7.5Y R8/3 | 約30% | |
| 45 | 006-03 | 丸瓦 | F 19 S D48 | 焼長 10.6 | 焼高 6.6 | - | 内面：ナツ、赤目線部のみ 外面：ナツ | 漆 | 良 | 灰色 N4/0 | 約30% | |
| 46 | 011-02 | 瓦葺 大鉢 | C 3 S D28 | - | 焼高 6.9 | 選擇 18 | 内面：オオエ、ナツ 外面：工ナツ、線部削り出し | 漆 | 良 | 灰色 N4/0 | 約30% | |
| 47 | 024-06 | 鉄製品 角釘 | C 7 S X20 | - | - | 残存長 3.4 | - | - | - | - | - | |
| 48 | 013-02 | 土師器 小皿 | F 12 S D43 | 9.2 | 1.6 | - | 内面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ 外面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ | 今や漆 | - | にぶい黄褐色 10Y R7/2 | 完形 | |
| 49 | 013-03 | 土師器 小皿 | F 11 S D43 | 10 | 1.8 | - | 内面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ 外面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ | 今や漆 | - | にぶい黄褐色 10Y R7/2 | 約30% | |
| 50 | 013-04 | 土師器 小皿 | F 11 S D43 | 8.6 | 1.6 | - | 内面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ 外面：オオエ、ナツ | 今や漆 | - | 黄褐色 2.5Y 6/3 | 約30% | |
| 51 | 013-05 | 土師器 鉢 | F 13 S D43 | - | 焼高 1.5 | - | 内面：コナダ 外面：コナダ | 今や漆 | - | 外面：黄褐色 7.5Y R4/1 内面：灰黄褐色 10Y R6/2 | 白線部 小片 | |
| 52 | 011-04 | 陶器 壺 | F 19 S D43 | - | 焼高 5 | - | 内面：コナダ 外面：コナダ | 今や漆 | 良 | にぶい褐色 2.5Y 6/4 | 白線部 小片 | |
| 53 | 011-03 | 土師器 壺 | F 12 S D43 | 約10.4 | 焼高 9 | - | 内面：ハツ、白線部コナダ 外面：ハツ | 今や漆 | - | 黄褐色 7.5Y R7/2 | 約30% | |
| 54 | 013-01 | 土師器 瓶 | F 12 S D43 | 27.2 | 8.8 | - | 内面：ナツ、白線部コナダ 外面：オオエ、ナツ、ハツ | 今や漆 | - | 外面：にぶい黄褐色 10Y R5/2 内面：灰白色 10Y R8/2 | 約30% | |
| 55 | 011-01 | 瓦葺 大鉢 | F 9 S D43 | 約11 | 5.6 | 選擇 13.2 | 内面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ 外面：ナツ、線部削り出し | 漆 | 良 | 黄褐色 10Y R4/1 | 約30% | |
| 56 | 022-04 | 大行金 | F 13 S D43 | - | - | 残存長 1.1 | - | - | - | - | - | |
| 57 | 022-05 | 鉄片 | F 13 S D43 | - | - | 長さ 29g | - | - | - | - | - | |
| 58 | 001-01 | 埴 | S D43 | 高さ 14.5 | 高さ 13.8 | 選擇 16.7 | - | - | - | - | - | |
| 59 | 003-03 | 埴器 鉢 | S D43 | 15 | 8.4 | 選擇 7.8 | - | - | - | - | - | |
| 60 | 003-01 | 下駄 | S D45 | 残存 17.4 | 残存幅 8.4 | 残存厚 0.5~2.6 | - | - | - | - | - | |
| 61 | 003-02 | 埴 | S D43 | 長さ 8 | 幅 1.6~1.8 | 高さ 0.4~0.7 | - | - | - | - | - | |
| 62 | 023-06 | 鉄片 | F 12 S D43 | - | - | 厚さ 14 | - | - | - | - | - | |
| 63 | 017-09 | 土師 | F 9 S D43 | 焼長 6.1 | 焼高 8.15 | 1.9 | - | 今や漆 | - | 灰白色 10Y R8/2 | 約40% | 遺跡による文字有り |
| 64 | 005-05 | 土師器 小皿 | F 9 S D45 | 6.1~6.5 | 1.4 | - | 内面：オオエ、ナツ 外面：オオエ、ナツ | 漆 | - | にぶい褐色 7.5Y 6/4 | 完形 | |
| 65 | 004-01 | 土師器 小皿 | F 11 S D49 | 6.4 | 1.4 | - | 内面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ 外面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ | 漆 | - | にぶい褐色 7.5Y R7/4 | 白線部 約70% | 取り上げNo.1 |
| 66 | 005-06 | 土師器 小皿 | F 9 S D45 | 6.5 | 1.3 | - | 内面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ 外面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ | 漆 | - | にぶい褐色 7.5Y 6/4 | 約60% | |
| 67 | 007-03 | 土師器 小皿 | F 9 S D45 | 8 | 1.5 | - | 内面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ 外面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ | 漆 | - | 浅黄褐色 7.5Y R8/4 | 約30% | |
| 68 | 004-02 | 土師器 小皿 | F 11 S D49 | 7.4 | 1.4 | - | 内面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ 外面：オオエ、ナツ | 漆 | - | にぶい黄褐色 7.5Y R7/3 | 約30% | 取り上げNo.4 |
| 69 | 014-03 | 土師器 小皿 | F 9 S D45 | 8 | 1.6 | - | 内面：ナツ、白線部コナダ 外面：ナツ、ユビオオエ | 今や漆 | - | にぶい褐色 7.5Y R7/4 | 約20% | |
| 70 | 007-05 | 土師器 小皿 | F 11 S D49 | 7.2 | 1.2 | - | 内面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ 外面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ | 漆 | - | にぶい褐色 7.5Y R7/4 | 約30% | |
| 71 | 007-01 | 土師器 小皿 | F 11 S D49 | 7.2 | 1.5 | - | 内面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ 外面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ | 漆 | - | にぶい褐色 7.5Y R7/4 | 約30% | |
| 72 | 007-04 | 土師器 小皿 | F 11 S D49 | 8.1 | 1.4 | - | 内面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ 外面：オオエ、ナツ | 漆 | - | にぶい黄褐色 10Y R7/4 | 約30% | |
| 73 | 005-03 | 土師器 小皿 | F 9 S D45 | 8.4 | 1.4 | - | 内面：オオエ、ナツ 外面：オオエ、ナツ | 漆 | - | にぶい褐色 2.5Y 6/4 | 約40% | |
| 74 | 005-10 | 土師器 小皿 | F 9 S D45 | 8.6 | 1.7 | - | 内面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ 外面：オオエ、ナツ | 漆 | - | にぶい褐色 7.5Y 6/4 | 完形 | 取り上げNo.8 |
| 75 | 005-01 | 土師器 小皿 | F 9 S D45 | 8.2 | 1.8 | - | 内面：オオエ、ナツ 外面：オオエ、ナツ | 漆 | - | にぶい黄褐色 10Y R8/3 | 完形 | |
| 76 | 005-02 | 土師器 小皿 | F 9 S D45 | 7.7~8.2 | 1.5 | - | 内面：オオエ、ナツ 外面：オオエ、ナツ | 漆 | - | にぶい黄褐色 10Y R7/3 | 約20% | |
| 77 | 004-07 | 土師器 小皿 | F 9 S D45 | 7.8~8.6 | 1.7 | - | 内面：オオエ、ナツ 外面：オオエ、ナツ | 漆 | - | 灰白色 2.5Y 8/2 | 完形 | 取り上げNo.7 |
| 78 | 014-07 | 土師器 小皿 | F 9 S D45 | 8.7 | 1.6 | - | 内面：ナツ、白線部コナダ 外面：ナツ、ユビオオエ | 漆 | - | 灰黄色 2.5Y 7/2 | 約30% | |
| 79 | 005-08 | 土師器 小皿 | F 9 S D45 | 8.6 | 2.1 | - | 内面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ 外面：オオエ、ナツ | 漆 | - | 灰白色 10Y R8/2 | 約30% | 取り上げNo.6 |
| 80 | 015-02 | 土師器 小皿 | F 9 S D45 | 9.6 | 焼高 1.9 | - | 内面：ナツ、白線部コナダ 外面：オオエ、ナツ | 漆 | - | 灰白色 10Y R8/2 | 約30% | |
| 81 | 014-08 | 土師器 小皿 | F 9 S D45 | 8.8 | 1.5 | - | 内面：ナツ、白線部コナダ 外面：ナツ、ユビオオエ | 今や漆 | - | 黄褐色 2.5Y 4/1 | 約30% | |
| 82 | 006-01 | 土師器 小皿 | F 9 S D45 | 9.6 | 1.7 | - | 内面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ 外面：オオエ、ナツ | 漆 | - | 灰白色 2.5Y 8/1 | 約50% | 取り上げNo.10 |
| 83 | 004-03 | 土師器 小皿 | F 11 S D49 | 9.1~9.5 | 1.8 | - | 内面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ 外面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ | 漆 | - | 灰白色 10Y R8/2 | 完形 | 取り上げNo.9 |
| 84 | 005-07 | 土師器 小皿 | F 9 S D45 | 9.6 | 1.7 | - | 内面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ 外面：オオエ、ナツ | 漆 | - | 灰白色 2.5Y 8/1 | 約30% | 取り上げNo.3 |
| 85 | 014-04 | 土師器 小皿 | F 9 S D45 | 10.4 | 1.9 | - | 内面：ナツ、白線部コナダ 外面：ナツ | 漆 | - | 灰白色 2.5Y 8/2 | 約30% | |
| 86 | 005-04 | 土師器 小皿 | F 9 S D45 | 9.3~9.7 | 1.9 | - | 内面：オオエ、ナツ、白線部コ ナダ 外面：オオエ、ナツ | 漆 | - | 浅黄褐色 10Y R8/3 | 約20% | |

95 遺跡調査報告書(2)

| No. | 登録番号 | 部種 | 出土位置 | 口径 | 高さ | その他 | 調査方法の特徴 | 胎土 | 構成 | 色 | 調 | 保存 | 備考 |
|-----|--------|--------|-----------------|----------|-----------|-------------|--|--------------------|----|--|----------|-------------|-----------|
| 87 | 000-09 | 土師器 小皿 | B9 S/D45 | 9.6 | 2 | — | 内面: オサユ、ナブ、口縁部ヨコナデ 外面: オサユ、ナブ | 赤 (~1mmの砂粒含む) | — | 浅黄褐色 | 7.5YR/3 | 約50% | 取り上げNo.7 |
| 88 | 004-06 | 土師器 小皿 | F9 S/D45 | 10.6 | 1.9 | — | 内面: オサユ、ナブ 外面: オサユ、ナブ | 赤 (~1mmの砂粒含む) | — | にがい黄褐色 | 10YR/3 | 約80% | 取り上げNo.6 |
| 89 | 012-02 | 土師器 小皿 | B9 S/D45 | 9.8 | 2.1 | — | 内面: オサユ、ナブ、口縁部ヨコナデ 外面: オサユ、ナブ | 中々赤 (金葉母含む) | — | 灰白色 | 7.5YR/2 | 約90% | |
| 90 | 000-02 | 土師器 小皿 | B9 S/D49 | 9.8 | 1.9 | — | 内面: オサユ、ナブ、口縁部ヨコナデ 外面: オサユ、ナブ | 赤 (~3mmの砂粒含む) | — | にがい黄褐色 | 5YR/4 | 完形 | 取り上げNo.11 |
| 91 | 007-03 | 土師器 小皿 | E11 S/D49 | 10 | 2 | — | 内面: オサユ、ナブ、口縁部ヨコナデ 外面: オサユ、ナブ | 赤 (~1mmの砂粒含む) | — | 浅黄褐色 | 7.5YR/4 | 約80% | |
| 92 | 004-04 | 土師器 小皿 | F9 S/D45 | 11.2 | 1.9 | — | 内面: オサユ、ナブ、口縁部ヨコナデ 外面: オサユ、ナブ | 赤 (~1.5mmの砂粒含む) | — | 灰白色 | 10YR/2 | 約20% | 取り上げNo.2 |
| 93 | 009-05 | 須恵器 杯 | H9 S/D45 | — | 2.3 | — | 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ | 赤 | 良 | 灰色 | N6/0 | 約20% | |
| 94 | 015-06 | 陶器 杯 | H9 S/D45 | — | 焼成 1.8 | — | 内面: ロクロナデ、底縁 外面: ロクロナデ、取り出し高台 | 赤 | 良 | 黄褐色: 灰白色 2.5YR/2 緑: 灰白色 5YR/1 | | 約50% | |
| 95 | 019-02 | 土師器 甕 | H9 S/D45 | 31 | 残高 5.8 | — | 内面: ナブ、口縁部ヨコナデ 外面: ハク | 赤 (~1mmの砂粒・雲母含む) | — | 外面: N3/0 内面: 灰黄褐色 10YR/6/2 | | 約50% | |
| 96 | 009-04 | 土師器 甕 | F9 S/D45 | 23 | 残高 4.4 | — | 内面: ナブ、口縁部ヨコナデ 外面: ハク | 赤 | — | 黄褐色 2.5Y3/1 | | 口縁部 約20% | 取り上げNo.3 |
| 97 | 009-03 | 陶器 甕 | G9 S/D45 | 27.6 | 残高 3.9 | 13.8 | 内面: 回転ナブ 外面: 回転ナブ、底筋ナブ | 赤 (~4mmの小石・砂粒含む) | 良 | 外: 褐色 5YR/6 内: にがい黄褐色 5YR/5/4 | | 口縁部 約20% | |
| 98 | 014-03 | 陶器 甕 | B9 S/D45 | 31 | 残高 4.9 | — | 内面: ロクロナデ、口縁部ヨコナデ 外面: ロクロナデ | 赤 (~6mmの砂粒含む) | — | 外面: 灰黄褐色 10YR/6/3 内面: 浅黄褐色 7.5YR/6/3 | | 口縁部 約20% | |
| 99 | 009-02 | 陶器 甕鉢 | F9 S/D45 | — | 残高 5.5 | 底縁13 | 内面: 回転ナブ 外面: 回転ナブ、底筋ナブ | 赤 | 良 | 外: 褐色 2.5YR/6/4 内: 赤褐色 2.5YR/4/4 | | 底筋部 約30% | |
| 100 | 004-05 | 陶器 甕鉢 | F9 S/D45 | — | 残高 8.5 | — | 内面: 回転ナブ 外面: 回転ナブ、底筋ナブ | 赤 (~2.5mmの砂粒含む) | 良 | にがい黄褐色 10YR/6/3 | | 約20% | 取り上げNo.4 |
| 101 | 009-03 | 陶器 甕鉢 | B9 S/D45 | 31 | 13.2 | 底縁 12.7 | 内面: 回転ナブ 外面: 回転ナブ、底筋ナブ | 赤 (~5mmの砂粒含む) | — | 灰白色 | 10YR/2 | 約20% | |
| 102 | 024-09 | 鉄滓 | G9 S/D45 | — | — | 重さ 19g | — | — | — | — | — | — | |
| 103 | 007-06 | 瓦瓦 | B9 S/D45 | 残高 33 | 6 | — | 内面: ナブ、布目形磨面 外面: ナブ | 赤 | 良 | 灰色 | N5/0 | 約20% | |
| 104 | 020-04 | 土師器 小皿 | C6 P115 | 8.4 | 残高 1.2 | — | 内面: ナブ 外面: ナブ | 赤 | — | 灰白色 | 10YR/2 | 約50% | |
| 105 | 020-06 | 土師器 小皿 | C6 P115 | 8 | 1.2 | — | 内面: ナブ、口縁部ヨコナデ 外面: ナブ | 赤 | — | にがい黄褐色 | 10YR/3 | 約50% | |
| 106 | 020-01 | 瓦器 碗 | C4 P115 | 13.7 | 3.7 | 高台径 6.3 | 内面: 7.5YR、口縁部ヨコナデ 外面: ナブ、オサユ、高台取り出し高台 | 赤 | 良 | 灰白色 N6/0 灰色 N4/0 | | 約50% | |
| 107 | 020-02 | 瓦器 碗 | P115 P115 | 13.1 | 残高 3.6 | — | 内面: 7.5YR、口縁部ヨコナデ 外面: ナブ、オサユ | 赤 | 良 | 灰色 | N6/0 | 約20% | |
| 108 | 015-03 | 土師器 小皿 | B10 P110 | 9.1 | 1 | — | 内面: ナブ、口縁部ヨコナデ 外面: ナブ | 赤 | — | 浅黄褐色 | 10YR/4 | 約20% | |
| 109 | 014-09 | 土師器 小皿 | E10 P112 | 8.2 | 1.7 | — | 内面: ナブ、口縁部ヨコナデ 外面: ナブ | 赤 | — | 浅黄褐色 | 7.5YR/3 | 約20% | |
| 110 | 011-05 | 土師器 小皿 | B10 P114 | 8 | 1.1 | — | 内面: オサユ、ナブ、口縁部ヨコナデ 外面: オサユ、ナブ | 中々赤 | — | にがい黄褐色 | 10YR/5/4 | 約20% | |
| 111 | 015-04 | 土師器 小皿 | B8 P115 | 10.9 | 残高 2.5 | — | 内面: ナブ、口縁部ヨコナデ 外面: ナブ | 赤 (~1mmの砂粒含む) | — | 外面: 灰黄褐色 10YR/6/2 内面: にがい黄褐色 10YR/7/3 | | 約20% | |
| 112 | 020-03 | 瓦器 碗 | C4 P119 | 13.8 | 残高 3.3 | — | 内面: 7.5YR、口縁部ヨコナデ 外面: ナブ、オサユ | 赤 | 良 | 灰色 | N5/0 | 約20% | |
| 113 | 015-05 | 土師器 小皿 | B8 P114 | 6.8 | 1.55 | — | 内面: ナブ、口縁部ヨコナデ 外面: ナブ | 赤 (~1mmの砂粒含む) | — | 外面: 灰黄褐色 10YR/7/4 内面: 灰白色 2.5YR/2 | | 口縁部 約20% | |
| 114 | 012-03 | 陶器 杯 | B8 P115 | 16.7 | — | — | 内面: 旋輪 外面: 底筋ロクロナデ | 赤 | 良 | 内外面: 黄褐色: 灰白色 2.5Y6/2 外面: 黄褐色: 灰白色 5Y/1 | | 口縁部 約30% | |
| 115 | 014-03 | 瓦器 鉢 | C2 P112 | 26 | 残高 9.5 | — | 内面: 工具ナブ、口縁部ヨコナデ 外面: 工具ナブ | 赤 | 良 | 外面: 黄褐色 10YR/5/1 内面: 灰色 N6/0 | | 約20% | |
| 116 | 019-01 | 陶器 皿 | H10 P111 | 25.8 | 13.7 | 底縁 9 | 内面: 回転ナブ 外面: 回転ナブ、底筋ナブ | 赤 (~2mmの小石含む) | — | 外面: にがい黄褐色 5YR/6/3 7.5YR/4 内面: にがい黄褐色 5YR/6/2 | | 約50% | |
| 117 | 019-01 | 陶器 皿 | H10 P112 | 11 | 2.1 | 高台径 6.4 | 内面: ロクロナデ 外面: 回転ナブ、高台取り出し高台 | 赤 | 良 | 輪: 灰色 N1/0 内面: N7/0 | | 約70% | |
| 118 | 019-10 | 弥生土師 皿 | H12 上面筋 | 9 | 残高 2.4 | — | 内面: ナブ、口縁部ヨコナデ 外面: ハク | 赤 (~1mmの小石・砂粒含む) | — | 外面: にがい黄褐色 10YR/7/4 内面: にがい黄褐色 10YR/5/3 | | 口縁部 約20% | |
| 119 | 017-01 | 須恵器 甕 | B7 輪部 上面筋 | 12.2 | 2.55 | — | 内面: ロクロナデ 外面: 底筋・取り出し高台 | 中々赤 (1~2mmの砂粒含む) | 良 | 灰色 | N7/0 | 約40% | |
| 120 | 012-05 | 須恵器 甕 | B7 輪部 上面筋 | — | 残高 1.6 | 高台径 約9 | 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、高台取り出し高台 | 赤 (~0.5mmの砂粒含む) | 良 | 灰色 | N7/0 | 約50% | |
| 121 | 010-01 | 須恵器 甕 | C5 包合層 | — | 残高 2.5 | 高台径 9.9 | 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、高台取り出し高台 | 赤 | 良 | 灰色 | N6/0 | 約80% | |
| 122 | 019-05 | 須恵器 甕 | D4 底縁 | — | 残高 4.8 | 高台径 12.5 | 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、高台取り出し高台 | 赤 | 良 | 灰色 | N7/0 | 約20% | |
| 123 | 010-03 | 須恵器 甕 | C4 包合層 | — | — | 高台径 10 | 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ | 赤 | 良 | 灰色 | N6/0・5/0 | 約20% | |
| 124 | 012-06 | 土師器 甕 | 下地区 上面筋 | — | 残高 5.8 | — | 内面: ハク、口縁部ヨコナデ 外面: ハク | 中々赤 (~1mmの砂粒含む) | — | 外面: 浅黄褐色 7.5YR/6/3 内面: 浅黄褐色 10YR/8/3 | | 口縁部 小片 | |
| 125 | 012-04 | 須恵器 甕 | G11~H11 包合層 | — | 残高 3.8 | 底縁 約8 | 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、高台取り出し高台 | 赤 | 良 | 内面: 灰色 N5/0 外面: 灰色 N4/0 | | 約30% | |
| 126 | 019-03 | 須恵器 甕 | H11 上面筋 | — | 残高 3.9 | 高台径 8.8 | 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、高台取り出し高台 | 赤 (~0.5mmの砂粒含む) | 良 | 外面: にがい黄褐色 10YR/6/3 内面: 灰色 N6/0 | | 約20% | |
| 127 | 019-07 | 黒色土師 甕 | H12 上面筋 | 13 | 3.4 | — | 内面: オサユ、ナブ、口縁部ヨコナデ 外面: オサユ、ナブ、口縁部ヨコナデ | 赤 (~0.5mmの砂粒・雲母含む) | 良 | 外: オサユ・灰色 10YR/6/2 内: 灰色 N3/0 | | 約20% | |
| 128 | 019-02 | 灰土師 甕 | G11 上面筋 | — | 残高 2.2 | 高台径 7.7 | 内面: ロクロナデ 外面: ロクロナデ、高台取り出し高台 | 赤 | 良 | 黄褐色: 灰白色 5Y/1 | | 約20% | |
| 129 | 010-05 | 青磁 鉢 | H11 底縁筋出 | — | 残高 3.6 | — | 内面: ロクロナデ旋輪 外面: ロクロナデ旋輪 | 赤 | 良 | 灰白色 | N8/0 | 口縁部 一部 | |

| No. | 登録番号 | 器種 | 出土位置 層・区別 | 口徑 (cm) | 器高 (cm) | その他 (cm) | 調査技法の特徴 | 胎土 | 構成 | 色調 | 残存 | 備考 |
|-----|--------|-------------|-------------------|------------|------------|-------------|---|------------------|-----|--------------|----|-------------|
| 130 | 010-04 | 青磁 碗 | 下地区 遺物層別 | — | 器高 4.3 | 高台径 6.7 | 内面：ロクロコナテ 外面：ロクロコナテ、熱うし出し 滑 | 青 | 貝 | 灰白色 N8/0 | — | 底面 約40% |
| 131 | 010-04 | 瓦器 碗 | D-5 包査層 | 12.4 | 2.8 | 高台径 4 | 内面：テガキ、口縁部コナテ 外面：ナテ、オサエ、高台部 付け後ナテ | 青 | 貝 | 灰色 N5/0 | — | 約30% |
| 132 | 010-02 | 瓦器 碗 | C-5 包査層 | 12.4 | 2.8 | — | 内面：テガキ、口縁部コナテ 外面：ナテ、オサエ | 青 | 貝 | 灰色 N5/0 | — | 約30% |
| 133 | 010-07 | 土師器 小皿 | B10 藤込層土 | 8.8 | 2 | — | 内面：テガキ、ナテ、口縁部コ ナテ 外面：オサエ、ナテ | 青 | — | 浅黄褐色 10YR8/4 | — | 約90% |
| 134 | 010-08 | 土師器 小皿 | C-5 包査層 | 8.6 | 1.1 | — | 内面：テガキ、ナテ、口縁部コ ナテ 外面：オサエ、ナテ | 青 | — | 浅黄褐色 10YR8/7 | — | 約90% |
| 135 | 017-08 | 土師器 小皿 | H10 包査層 | 8.5-8.7 | 2.05 | — | 内面：ナテ、口縁部コナテ 外面：ナテ | やや青 | — | 浅黄褐色 10YR8/7 | — | 約90% |
| 136 | 009-03 | 陶器 燈鉢 | D-4 包査層 | — | 器高 2.6 | 底径 13.7 | 内面：回転ナテ、底面ナテ 外面：回転ナテ、底面ナテ | 粗 (1~2mmの砂状含む) | — | 浅黄褐色 10YR8/7 | — | 底面 約20% |
| 137 | 009-02 | 陶器 燈鉢 | D-2 トロンテ 北層 | 28.2 | 器高 8.5 | — | 内面：回転ナテ 外面：回転ナテ | やや粗 (1~2mmの砂状含む) | — | 褐色 5YR7/6 | — | 約10% |
| 138 | 021-04 | 土師器 椀 | D-4 包査層 | 30.3 | 器高 6.7 | — | 内面：工具ナテ、口縁部コナ テ 外面：外面 | 青 | 貝 | 灰色 N5/0 | — | 口縁部 約20% |
| 139 | 009-01 | 瓦器 火鉢 | 下地区 遺物層別 | — | 器高 8.9 | — | 内面：ナテ 外面：ナテ、脚部貼り付け後ナ テ | 青 | やや貝 | 灰色 N4/0 | — | 脚部 約20% |
| 140 | 024-05 | 鉄製品 針釘 | C-7 包査層 | — | — | 残存長 7.3 | — | — | — | — | — | — |
| 141 | 024-01 | 鉄製品 針 | C-6 包査層 | — | — | 残存長 3.5 | — | — | — | — | — | — |
| 142 | 024-02 | 鉄製品 針 | B-3 包査層 | — | — | 残存長 3.4 | — | — | — | — | — | — |
| 143 | 024-04 | 鉄製品 刀子 | H11 包査層 | — | — | 残存長 2.6 | — | — | — | — | — | — |
| 144 | 024-03 | 鉄製品 磨状 片 | Fは 包査層 | — | — | 残存長 3.3 | — | — | — | — | — | — |

7. 土師器・瓦器(4)

[土師器・瓦器]

報告書に記載した土師器の調査子は、以下の図によって作成した。

- 1 調査子番号の番号は、土師器土師器の番号に於ける。これは器種・材質が戸を問わず通し番号である。ただし、これは掲載した土師器以外の器種であり、土師器を作成できない層片には、番号をふっていない。したがってこの番号が土師器の全てでない。
- 2 土師器番号は、土師器を行った層の番号である。ただし3層はB層の番号で、併置の2層はB層での土師器の番号である。
- 3 土師器番号は、土師器の番号を示し、土師器の番号を示している。土師器番号は、土師器番号及び土師器番号を示すにされた。
- 4 器種については、不明しているものについて記載した。
- 5 土師器について記載した器種・器種、その層は、それぞれ番号をとっている。また、「1」は、土師器できないものを示している。また、記載のとおりcmである。さらに土師器によっては、長・幅・厚・径・高さ・口径・つまみ径などを示すこともある。
- 6 調査技法の掲載については、あくまでも成されている調査について記述しており調査型によるものではない。
- 7 用土については、発掘を記し、層中に於ける・形跡の有無や土について記述する。
- 8 構成については、長・径・厚の3要素に於けて、その間に於ける場合は「やや」を記述している。
- 9 重量については、「新編 埋蔵品名目録」(小宮・竹島編1997)に基づいて記述した。
- 10 残存については、土師器の残存率を記述している。「1」は、示されたいものである。
- 11 番号は、その土師器における特徴的な器種を記載しているか、土師器の層の番号などを示している。

V 自然科学分析

はじめに

森林調査は、植物利用の歴史に由来する。元来、調査により、古縄文時代の遺跡、奈良〜平安時代の墓、柱梁的跡、溝、聚穴遺跡、鎌倉〜室町時代の墓、柱梁的跡、聚穴的跡、二重、溝、柱穴などが検出されている。

本報告では、木材利用及び樹種利用状況に関する資料を得るため、鎌倉〜室町時代と考えられる遺構から採出した木製品や種属遺物の鑑定を実施する。

1. 木材の樹種

(1) 試料

試料は、採出した木製品7点（試料番号1-4, 6-8）と屑材1点（試料番号5）の合計8点である。

(2) 分析方法

試料の断面を削いて木口（観察面）・木口（観察面）・木口（観察面）の3断面の徒手断面を作成し、ガム・クロラール（増大クロラール、アラビアゴム粉、グリセリン、蒸留水の混合液）で封じし、プレパラートを作成する。作成したプレパラートは、顕微鏡観察で観察・鑑定する。

屑材は、3断面の徒手断面を作成し、顕微鏡観察および徒手断面観察を削いて木材鑑定の特徴を観察し、種属を鑑定する。

なお、鑑定の根拠となる顕微鏡での木材鑑定の特徴については、島津・伊東（1982）、Wheeler氏（1998）、Richter氏（2006）を参考にしている。また、古縄文時代の木材鑑定の報告の特徴については、秋（1991）、伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）や他の分析方法・森林総合研究所の木口木材鑑別データベースを参考にしている。

(3) 結果

樹種を鑑定結果を表1に示す。木製品は針葉樹3種類（クリ・モクレン属・カツラ）

に鑑定された。また、屑材はマツ属錐葉松属に鑑定された。3種類の解剖学的特徴を記す。

・マツ属錐葉松属（Pinus subgen. Diploxylon）マツ科

樹木の組織は年輪帯と冬芽層帯で構成される。年輪帯の木材部から実材部への移行はやや急やかで、実材部の幅は広い。冬芽層帯は実材部に認められる。冬芽組織は年輪帯、実材部、冬芽層帯、エビセリウム層帯で構成される。冬芽層帯は空腔となる。冬芽層帯層帯には黒空腔の空腔が認められる。冬芽組織は3層、1-15細胞層。

・スギ（Cryptomeria japonica (L. f.) D. Don）スギ科スギ属

樹木の組織は年輪帯と芽層帯で構成される。年輪帯の木材部から実材部への移行はやや急やかで、実材部の幅は比較的広い。芽層帯はほぼ実材部に認められる。冬芽組織は実材部のみで構成される。冬芽層帯はスギ科で、1層に2-4層。冬芽組織は3層、1-15細胞層。

・アスナロ（Thuopsis dolabrata Sieb. et Zucc.）ヒノキ科アスナロ属

樹木の組織は年輪帯と芽層帯で構成される。年輪帯の木材部から実材部への移行は緩やかで、実材部の幅は狭い。芽層帯は実材部に近に認められる。冬芽組織は実材部のみで構成され、外層には茶褐色の芽層帯に認められる。冬芽層帯はヒノキ科で、1層に1-4層。冬芽組織は3層、1-15細胞層。

・カバノキ属（Betula）カバノキ科

| 番号 | 器種 | R- | 遺構 | 樹種 |
|----|-------|--------|--------------|------------|
| 1 | 箱状木製品 | 002-01 | SR63上層 | スギ |
| 2 | 下駄 | 003-01 | SD65 | スギ |
| 3 | 榎? | 003-02 | SR63上層 | スギ |
| 4 | 漆器碗 | 003-03 | SR63上層 | カバノキ属 |
| 5 | 炭化材 | | SH90側溝内 | マツ属錐葉松属東亜属 |
| 6 | 柱根 | | G9P2 | スギ |
| 7 | 薄板 | | 南壁サブトレ(SR63) | アスナロ |
| 8 | 杭 | | SD65 | マツ属錐葉松属東亜属 |

表1 樹種鑑定結果

葉の形で、葉は狭卵形に2-4倍が場合して拡大し、葉縁に毛が散在して縁を疎鋸させる。葉背は常葉葉を有し、葉柄は卵状〜長円状に肥厚する。葉の硬さは強、1-4cm厚、1-30cm長さ。

(4) 葉脈

木製品は、葉状木製品、葉、梗、漆器板、柱根、薄板、幹である。葉は厚3種類、葉変厚1種類に限定され、スギが多い。器用型を見ると、葉状木製品、葉、梗、柱根がスギであり、木器が適宜で器用型が強く耐湿しやすいスギ材が幅広い用途に利用されていたことが想定される。一方、薄板はアスナロであった。アスナロは、スギとまじく木器が適宜で器用型が強い材を有し、スギよりも軽くて湿に濡れる。また、スギに比較して葉部の材が強く、より均質である。幹は、錫蘭管吹き産であった。錫蘭管吹き産は、いわゆるニヨウマツ産であり、本産域ではアカマツまたはクロマツと考えられる。いずれも葉変厚材としては比較的強度や反り率が強く、幹材として適した材を選択していることが想定される。

漆器板はカバノキ産であり、今までの木製品の産地で葉変厚材が利用されている。カバノキ産は、比較的硬で強度が高い。また、葉背が小さく、葉変厚部の密度の違いもほとんどないため、全体的に緻密で均質である。漆器板の木質としては、ブナ産、ケヤキ、トチノキ等が一般的であり、カバノキ産の利用は少ないが、今までの産域から本産域ではカバノキ産の漆器板が利用されていたことが想定される。

葉材は、幹にも認められた錫蘭管吹き産であった。遺構小から得られていることから、仰かきの木質試験により木を受けて評価したことが想定される。

2. 種実の種類

(1) 試料

種実試料は、E13のSR63³層から得た種実3倍(種実1)と、F9のSD65から得た種実3倍(種実2)の計2試料6点について分析する。

(2) 分析手法

試料を双葉果実顕微鏡で観察し、双葉果実および

び果実の形態的特徴を調査する(石川, 1994)、ミズノの種実調査(石川ほか, 2000)若との対照から、種実の種類と部位を決定する。分析用の種実塊は、70%エタノール溶液と共に野に置いて返却する。

(3) 結果

・種実1(E13³ SR63³層)

スモモ(*Prunus salicina* Lindley: バラ科サクラ属)の枝(小葉)に発見された。葉11倍、葉片2倍。葉柄長、レンズ状縁厚。葉はやや薄。葉部には強い溝があり、一方の側には縫合線が発達する。小葉は厚く硬く、手には浅い凹みが感じられる。長さ1.2-1.6cm、幅1.1-1.2cm、厚さ8.5mm厚度。葉片2倍は、縫合線に沿って割れた部分で、葉部には縫合線が沿っている縁厚(長さ8-12mm、幅7-9mm厚度)の窪みがある。

・種実2(F9³ SD65)

トウガン(*Benincasa hispida* (Thunb. ex Murray) Cogn.: ウリ科トウガン属)の種実(種実)に発見された。葉22倍、葉片1倍。葉柄長、卵形。葉はやや薄。長さ11-12mm、幅6-7mm、厚さ1.5mm厚度。種実葉部は卵形で縁厚の溝がある。種実全体の全長は縫合線には溝があり薄くなる。種実は厚くやや硬い。

(4) 考察

スモモ、トウガンは、古くから栽培のために持ち込まれた渡来種である(石川, 1991)、スモモは観賞用の産、果実が食用、葉は若くに広く利用され、トウガンは果実が食用に利用される。

これらの栽培地帯の可食部である種実が、遺構から検出された状況を考慮すると、本産域遺跡で栽培もしくは持ち込まれ利用されていたものが、生活残滓として遺構内に発見された若の葉の分析が想定される。(バリノ・サーヴェイ株式会社 藤橋 幹・松本 誠記)

【参考文献】

- 林昭三, 1991, ミズノ木質 顕微鏡写真集, 京都大学木質科学研究所。
- 石川茂徳, 1994, 奈良県で出土した種実調査, 石川茂徳等 刊行委員会, 328p.
- 石川茂徳, 1995, ミズノ木質変厚材の解剖学的記載 I, 木質研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 石川茂徳, 1996, ミズノ木質変厚材の解剖学的記載 II, 木質

- 李・素賢, 32, 京都大学大学院理学部, 66-176.
- 伊東啓久, 1997, ソウダク変形材の解剖学的記載Ⅲ, 木材研究, 33, 京都大学大学院理学部, 83-201.
- 伊東啓久, 1998, ソウダク変形材の解剖学的記載Ⅳ, 木材研究, 34, 京都大学大学院理学部, 30-166.
- 伊東啓久, 1999, ソウダク変形材の解剖学的記載Ⅴ, 木材研究, 35, 京都大学大学院理学部, 47-216.
- 中木啓彦, 1991, 裁断材の最適時代の甲子 4 三層之伝達Ⅰ, 計測検査・省備定規・測計標準・計測士 1991 年編, 集訂第 165-174.
- リヒター・グロサー・ハイネ・ガソン, 2000, ソウダク材の顕微鏡的観察, 木材学会研究, 642p.
- Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P. E. (編), 2006, ソウダク材の顕微鏡的観察 IAWAによる光学顕微鏡的観察リスト, 伊東 啓久・滝井 智之・各野 雄三・宮部 久・小舟 榮志 (ソウダク部誌), 70p. [Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P. E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 島津 謙・伊東 啓久, 1982, 針葉材の組織, 林学誌, 176p.
- Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (編), 1998, 広葉材の顕微鏡的観察 IAWAによる光学顕微鏡的観察リスト, 伊東 啓久・滝井 智之・各野 雄三 (ソウダク部誌), 70p. [Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

VI ま と め

今今の発掘調査の成果にもとづいてそれぞれ各時代の検出遺構及び土壌層から検出し、著者の考察を加えて遺跡の位置づけを行い、まとめとしたい。

1 古墳時代

1) 古墳について

古墳では、古墳を1基確認した。調査の結果からは、直径約10mの円墳とみられる。墳丘は土質である。遺構は鉄製品・土製品が確認されている。調査土層は、古墳の近辺の傍型の遺構から須置器片が確認されていることや墓室の一部が埋めを受けているにも関わらず墓室全体がやや深く掘り込まれていたことや遺構の遺存状況から判断して、墓型の検出に遅わなかったとみられる。この古墳の遺存時期は、遺構から5世紀前半とみられる。また、調査地から約200～300mに所在する古墳遺跡では、5世紀代の直径25mの円墳が存在していたことが調査によって判明していることから、この古墳にもこの下層部近辺に存在していた可能性が高いとみられる。家に典型的な形跡を受けていたとしても多くの古墳が遺存されたことには変わりはないであろう。また、調査地から約1kmには浅草谷遺跡があり、これには、3世紀末～4世紀前半に建設された直径約30m前後と想定される円墳の須置器片が遺存している。古墳遺跡では、5世紀代又から6世紀代初期にかけての集落が確認されており、この集落を形成した人々の傍家が調査地から古墳を遺存した可能性であろう。よって、今後は調査地において古墳が確認される可能性があるため、今後検出した遺構は、森1号墳としておきたい。

2) 板瓦留層について

森1号墳の板瓦留層について土層から確認したもののから考えたい。確認したものは鉄釘、鉄鏝、瓦片、土質である。まず、瓦片について見てみると黒色土質の板瓦が確認されている。津西六太A遺跡、津西(三ツツツ)B遺跡(35号墳)からの板瓦があり、黒色土質の板瓦は津西六太A遺跡の板瓦がある。

遺跡の調査結果や出土品の組み合わせから想定できそうな点は、板瓦が黒色土質を持っていると考えようである。なお、この遺跡の集落の形成の契機やという考えも付加されよう。また、板瓦の材質は板瓦であるため、古墳より古墳の調査範囲外の可能性もあり、調査範囲近辺から採掘したものと考えられるのではなかろうか。

2 平安時代

1) 瓦葺野について

調査地では、平安時代と明確に判断できる遺構は、少ないが遺構は確認されている。まず遺構では、野6号墳の一部が確認されている。円墳遺構では、土質式製瓦器などが含まれており、この時代において集落が営まれていたと考えよう。

2) S Z 90について

S Z 90は、円墳遺構から12世紀前半に受けた傍受にかけての遺構と判断できようである。検出された瓦片は、長方形である。瓦片野6号墳を営んだものの影響が認められ、その瓦片は、瓦片野6号墳から遺構の周りを巡る溝状になるように遺存されていた。また、遺構の周りに2間×1間程度になるように柱穴が存在しており、その瓦片野6号墳のものがあったと想定される。

この遺構は、遺跡の発掘調査からみて判別がないものである。似たような判別では、野6号墳発掘調査を主導した瓦片野6号墳の土質であろうか。瓦片野6号墳のケースでは、板瓦留層をめぐっているが、この遺構では遺構に板瓦留層とみられる遺構は全くない。また、遺構においても瓦片留層のような容器や土質と見られる遺構は、確認できなかったため、差として考えるのは無意味である。

なお、この遺構の瓦片にまで深く広がる瓦片及び瓦片からぐるり溝を巡るように溝が掘り込まれていることや溝から溝が広くとどろきに思っている状況から溝が掘られて流れていたような状況が想定でき

そうである。前述したように集落の方位が考えられることから、然るに河川するような形跡であった可成り多く、トイレという可成りも考えられる。トイレでの処理として当代は、うらが部外州における木が、竹筒基の所通堀と30分の形跡は、類似するものがある。遺構の当部外州遺構から12世紀変り変から12世紀形変と考えたが、もううらうら可成りもふせできない。また、トイレ遺構とすると読み取り式の伊藤にあたる可成りもある。

3 鎌倉時代

遺構・遺物とも森林遺跡の跡となる程多い。鎌倉時代からまとめについて述べたい。

1) 瓦器について

SH40は、壱六瓦器である。遺構そのものは、遺跡の状況によって瓦器のみだけの検出である。遺物には、三平瓦器(16~19)及び瓦器(20)、瓦器(21)瓦器(22)、薄(21)が検出している。壱六瓦器が13世紀においても瓦器形態としてこの流域には方位していたとみられる。

また、SH41は、SH40の上層において検出した遺構である。SH41は、壱六瓦器と推定できそうである。遺物は、瓦器(24)が検出している。瓦器は、土物のコーナー隅に伏せた状態で検出しており土物の土物当部外州を示すものと推定される。遺物の当部外州は、SH40に同じものより後日のものと思われる。13世紀において壱六瓦器や壱六瓦器が遺跡によって検出でき、集落の方位したことを示している。

4 室町時代

遺物及び遺構の比較的多い当部外州である。その状況についてみておきたい。

1) 土物について

遺跡の上層で確認した壱六瓦器は、2塊である。1塊(SH41)は鎌倉時代、もう1塊(SH31)は室町時代と推定される。SH31は、土物に30分を巡らしていた可成り多い。土物外には瓦器が検出しており、ゆらかの土物であることが推定される。遺物については、埴輪(信交)、壱六瓦器三平瓦器、鉄釘などが検出しており、遺物の当部外州から15世紀末から16世紀初頭のものと思われる。さらにこの土物に遺

構が多く検出されている。このような状況からこれらの遺構は、集落でないし簡易的な要素を読み取れる。丹においても記しているように、三平瓦器では、簡易が600に及ぶほど方位している。遺構の土物状況から簡易の一角と推定できるのではなかろうか。よってSD65・69は、土物全量していたと推定される。なお、遺物の土物より部外の土物配管について「逆E字」形に示される配管が考えられている。この遺跡で確認された配管では、そのような土物配管が検出されていない。おそらく土物配管は、規模的な要素によってその有り方が異なっていた可成り多いと考えられる。

2) 土物について

現在、土物外土物外では、三平瓦器各瓦器が確認されている。しかしながら、三平瓦器について記された「三平瓦器」によるとこの土物外には、「土物外土物外」があったことが判明しており、所方位甲となっている。今このこの土物外は、土物外として記されている「土物外土物外」に方位するのではなかろうか。また、土物となれば規模も土物外と規模と推定され、方位にも問題がないであろうと考えられる。

さらに、遺物の当部外州を含めこの土物外は15世紀末以降には土物(SD63)によって土物外と推定されており、SD63が土物外される当部外州には、所方位していたと考えられる。現在も土物外が現存する土物外を留める土物外が多いので、この当部外州に所方位したことは、土物外にならざるを得ない要素の一つであったことに違いないであろう。

3) 土物外について

鎌倉時代における壱六瓦器から壱六瓦器への発展については、考察編において述べた。ここでは、その後の壱六瓦器について述べる。

遺跡の上層で確認した壱六瓦器は、2塊である。1塊(SH41)は鎌倉時代、もう1塊(SH31)は室町時代と推定される。SH31は、土物に30分を巡らしていた可成り多い。土物外には瓦器が検出しており、ゆらかの土物であることが推定される。遺物については、埴輪(信交)、壱六瓦器三平瓦器、鉄釘などが検出しており、遺物の当部外州から15世紀末から16世紀初頭のものと思われる。また、遺物外には

堅穴建物の示す可能性について

萩原義彦

1 堅穴住居から堅穴建物へ

近世調査例が著えき例でリ型における堅穴建物が確認されている。例証としては、栗沢洞跡で伊奈川界隈倉、栃木県下館遺跡、丸井洞跡で戦国時代の森島遺跡、岩手県北沢遺跡、山梨県西郷多など広く全体的に存在している。これら多くは、多形堅穴建物と称されている。栗沢の場合では、栗沢西二雲野松木権現前遺跡、栗沢西（伊奈野野）丸井遺跡、高野遺跡、丸井遺跡の洞があるが例証は少ない。大まかに全体的にみても典型的な要素は、年代からリ型にかけて遺構とされる。

今までの検討した堅穴建物は、遺跡の当窟から13世紀前半からリ型にかけての遺構と推定される。また、伊藤契備及び遺跡の当窟の中心から堅穴柱（SH40）及び堅穴建物（SH41）の契備は、堅穴柱が堅穴建物の前室等に存在していたことを示している。つまり、堅穴柱から堅穴建物に発展していった契備が強く、森島遺跡ではこの当窟に建物の構造を復元させるようなことがあったことを示していると考えられる。

2 堅穴建物の分類

堅穴建物について簡りに栗沢の例証で分類してみよう。多形形態から分類してみると高野遺跡、丸井遺跡は、ほぼ堅穴柱に近い状況であるのでA類とする。また、松木権現前遺跡、丸井遺跡は、柱の位置に柱穴が通るものであり、B類とする。典型的な要素でみるとA類はリ型に属し、B類はリ型において見られるものである。なお、森島遺跡のSH41は、伊藤洞のみに柱穴が見られB類の範疇内に納めると考えられる。

3 堅穴建物の性格

多形堅穴建物の研究は、考古学により多くなされてきており、権現前、木原洞、飯沼、栗澤和徳、宗泰高野、堂達高野若手氏によって奥倉家那の契備、契備に近い全体的に普遍的に存在し、契備に伴う建物として伝えられてきた。今までの遺構においても多形からリ型になかったが、契備および契備製品が契備によって契備に契備する建物として伝えることができそうである。なお、堅穴建物SH31からは、契備・契備によって契備はあるものの堅穴建物が契備と認められる。さらに、典型的な契備があるものの多形から契備400~500m前後に契備する丸井遺跡では、契備とみられる遺構を契備によって契備している。丸井遺跡は、契備に契備が契備し、その契備部の契備で契備する契備である。多形と契備によく似た状況であった契備が契備のではなからうか。

おそらくこの契備に契備に契備するものが契備していたとみられる状況は、堅穴建物が契備の契備・契備として伝えられるのではなからうか。

4 堅穴建物が示す可能性について

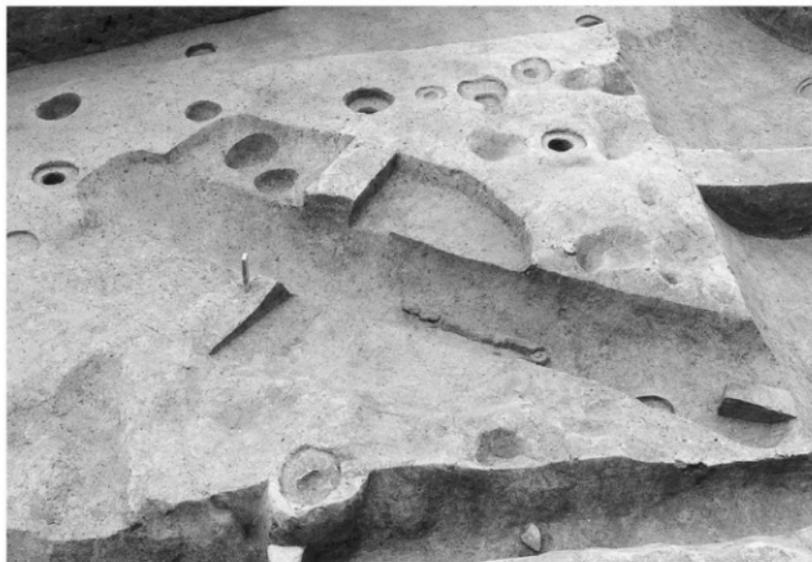
考古学の研究から多形堅穴建物は、奥倉家那との契備が契備されてきている。多形も契備的な契備を示すものは存在していないが契備があった契備的な要素を示すことのできる遺跡であろう。まず、堅穴建物という遺構そのものが存在すること、契備に契備契備などの遺跡が存在することなどの契備を含め、多形が契備路上、契備と契備する契備に近いことをあげることができる。さらに契備には契備川が契備に契備しており、契備は契備川に契備することから契備契備との契備の契備



PPAの鹿島(南から)



PPAの鹿島(北から)



S X32通時器の残片(西から)



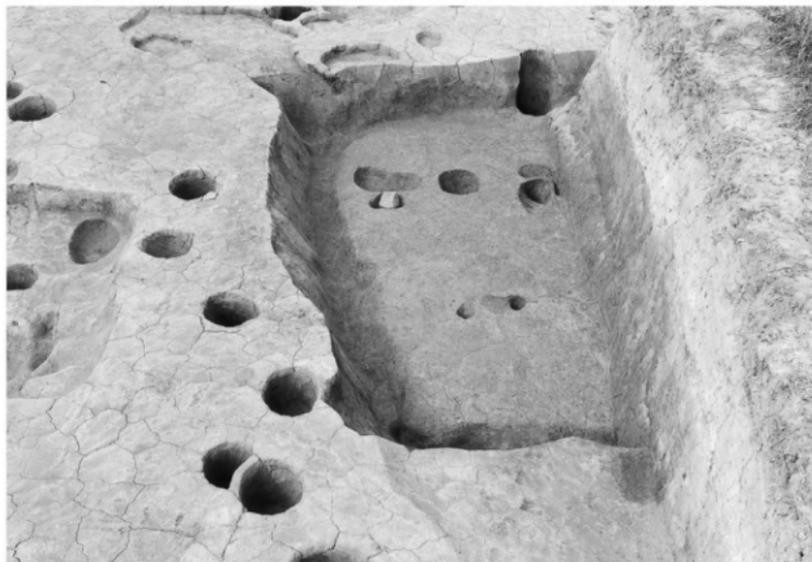
S X32通時器の残片(東から)



上 新野町 豊沢池(南から)



下 S H31号 豊沢池(南から)



S H40 豊沢穴(南から)



S H41 西宮穴(北西から)



・新井町築地瓦(北詰から)



・新井町築地瓦(南詰から)



『新野』遺跡発掘(2) (富から)



SH120² 発掘(富から)



S Z 90¹ 煉土窯(竈から)



S Z 90² 煉土窯(竈から)



S D65透射型X線写真(軸から)



S D65透射型X線写真(計から)



S D65遺跡跡地(計画から)



S K86遺跡跡地(計画から)



S K86通財土の穴(軸から)



S K86通財土の穴(軸から)



片瓦製品(SD63)の破片(地から)



漆器片(SD63)の破片(地から)



S Z 100^号 埴式竈(南から)



ピット遺跡の埴式竈(南から)



大日野陵古墳(北から)



大日野陵古墳(東から)





33



42



46



48



55



56



64



74

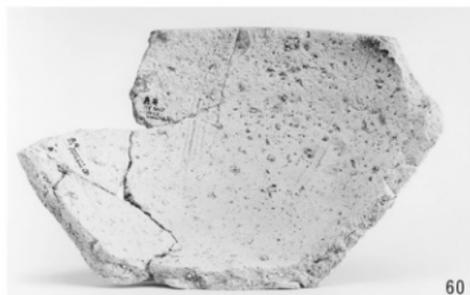


75



76

图版15(2)





116



133



135



139



140



60



63



60

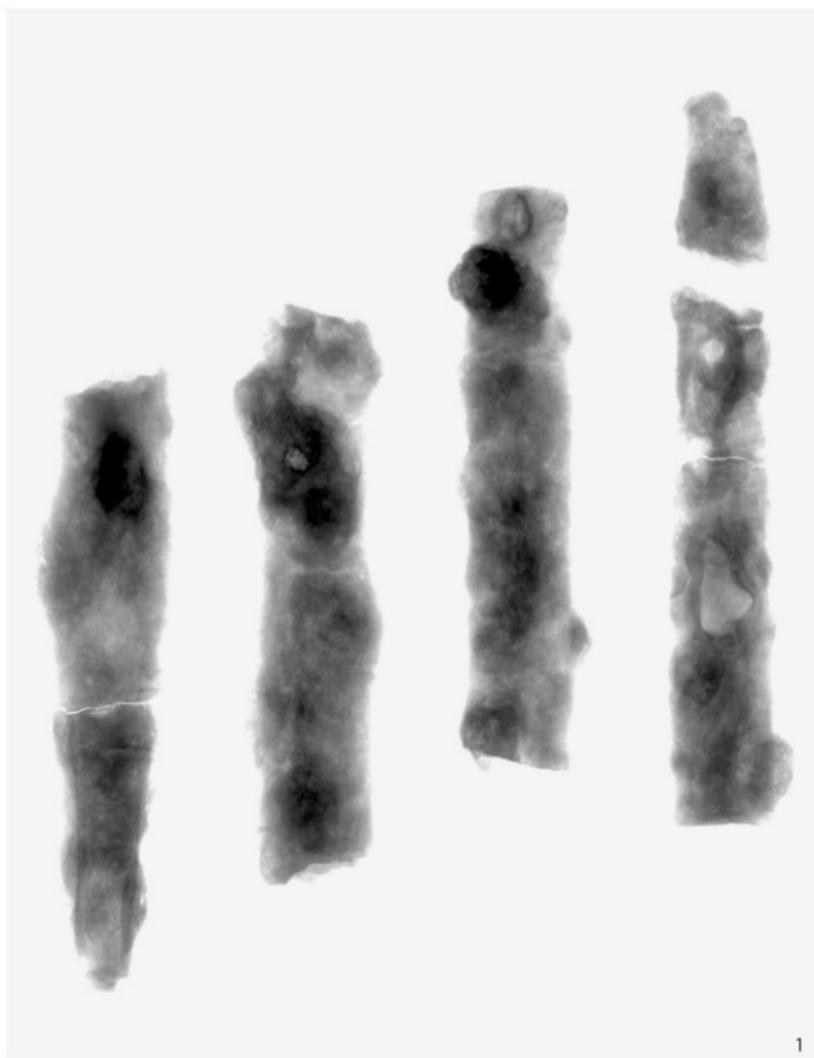


63



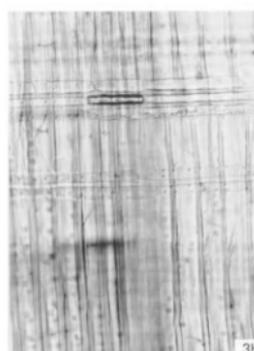
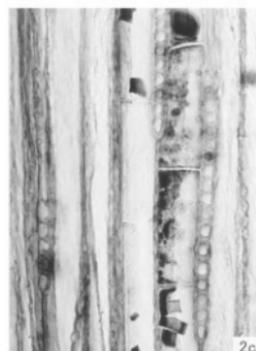
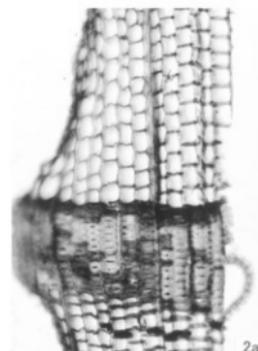
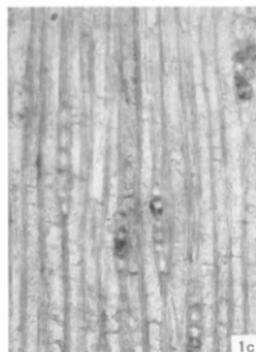
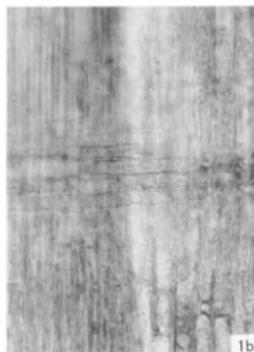
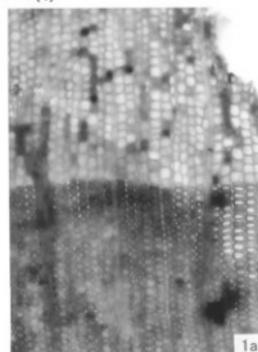
61

图版 17 (4)



1

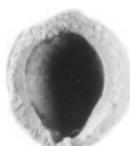
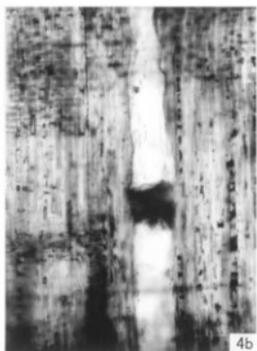
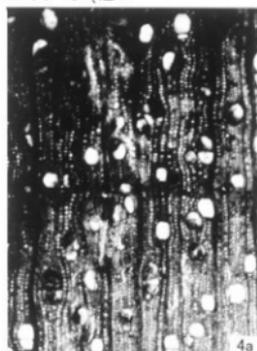
木理(1)



1. マツ属複維管束亜属(試料番号8)
 2. スギ(試料番号3)
 3. アスナロ(試料番号7)
- a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μ m: a
100 μ m: b, c

木質(2) - 厚皮退任



5a

5b

6a

6b

7

8

4. カバノキ属(試料番号4) a: 木口, b: 柁目, c: 板目

5. スモモ 核(種1)

6. スモモ 核(種1)

7. トウガン 種子(種2)

8. トウガン 種子(種2)

200 μ m: 4a

200 μ m: 4b, c

5mm: 5, 6

5mm: 7, 8

報 告 書 抄 録

| ふりがな | もりあにいせきはつくつちょうさほうこく | | | | | | | |
|---------------|--|-------------|----------------------------------|-------------------|-------------------------------|---------------------------------|--|---|
| 書名 | 森庵遺跡発掘調査報告 | | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 三重県埋蔵文化財報告 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 291 | | | | | | | |
| 編著者名 | 萩原義彦 | | | | | | | |
| 編集機関 | 三重県埋蔵文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒515 - 0325 三重県多気郡明和町竹川503 Tn0596 - 52 - 1732 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦2008年2月29日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| もりあにいせき | みえけんいしがしおおたに | 216 | A1244 | 34° 47' 32" | 136° 8' 15" | 2006. 5. 16 ～ 2006. 8. 23 | 1,400m ² (内下層 380m ²) | 平成18年 度道路改 良事業 (国)422 号(三田 坂B P) |
| 森庵遺跡 | 三重県伊賀市大谷 | | | | | | | |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 森庵遺跡 | 墳墓 | 古墳時代 | 古墳 | | 鉄製品(武器・工 具)、石製品(砥 石・勾玉) | | 総重量53.2kg | |
| | 集落跡 | 平安～室 町時代 | 掘立柱建物・堅穴住 居・堅穴建物・土 坑・溝・ピット | | 土師器・須恵器・瓦 器・陶器播鉢・甕等 | | | |
| 概要 | 森庵1号墳は、削平を受けているものの径10mの円墳である。主体部からは鉄剣、鉾、砥石、勾玉等が出土した。平安時代では、堅穴住居があり集落跡とみられる。鎌倉時代では堅穴建物を含む集落跡。室町時代は、宅跡とみられる区画施設が確認できた。 | | | | | | | |

三重県埋蔵文化財調査報告 291

森庵遺跡発掘調査報告

～伊賀市大谷所在～

2008（平成20）年2月

編集発行 三重県埋蔵文化財センター

印刷（有）山文印刷
